

山元町のまちづくりにおける
町民の満足度・必要度の調査分析報告

速報

平成30年12月

目次

1 アンケート調査実施概要	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 実施概要.....	1
(3) アンケート調査（一般町民）回収数の信頼性について.....	2
2 アンケート回答者の属性	3
(1) 一般町民アンケート.....	3
1) 性別.....	3
2) 年齢.....	3
3) 世帯主からみた続柄.....	3
4) 職業.....	4
5) 世帯（家族構成）.....	4
6) 震災以前の居住.....	5
7) 居住年数.....	5
8) 居住地区.....	6
9) 住宅の形式.....	6
(2) 若者アンケート.....	7
1) 性別.....	7
2) 所属.....	7
(3) 中学生アンケート.....	8
1) 性別.....	8
2) 通っている中学校.....	8
3) 学年.....	8
3 町のイメージについて	9
(1) すばらしいこと・誇りに思うこと（一般町民）.....	9
(2) 現在の山元町のイメージ（中学生）.....	11
1) 現在の山元町について.....	11
2) 山元町の好きな理由.....	12
3) 山元町で自慢できるもの.....	13
4) 山元町のまちづくりについて.....	14
4 居住継続意向について	16
(1) 一般町民と若者の居住継続意向の比較.....	16
5 まちづくりに対する町民の現在の満足度、将来の必要度の分析	17
(1) 分析の目的.....	17
(2) アンケート記入方法.....	17
(3) 分析フロー.....	18
(4) 平均得点算出方法.....	18
(5) まちづくりに対する満足度評価の概要.....	19

(6) まちづくりに対する必要度評価の概要	20
7 マトリクス分析	28
8 一般町民と中学生のまちづくりに対する満足度の比較	31
5 若者が求める将来像の把握	32
(1) 10年後にしていきたい暮らしのイメージ	32
(2) 山元町で暮らし続けるために必要な条件.....	33
(3) 一般町民と若者における理想とする町の将来像の違い.....	34
6 アンケート調査結果総括.....	35

1 アンケート調査実施概要

(1) 調査目的

本調査は、震災からの復旧・復興期を越えて、人口減少・少子高齢化を十分に踏まえながら新たな10年後の町の将来像の提示とその実現に向けた施策体系を内容とする「第6次山元町総合計画」の策定に向けて、現行施策の成果や町の将来像等に関する町民の考え・意見を把握し、計画に反映させることを目的に実施する。

本報告書では、アンケート調査を集計・分析した結果の中から、第6次山元町総合計画策定において、重要なポイントを一部抜粋し、集計・分析結果を掲載している。

(2) 実施概要

調査対象	一般町民	若者	中学生
	4,732世帯 (平成30年7月現在) (※1)	15歳から22歳の 山元町民	山下中学校、坂元中学校 の全生徒、計271名(平 成30年4月1日時点)
調査方法	行政文書配達による配布、 及び郵送による回収	行政文書配達による配布、 及び郵送による回収 (一般町民アンケートに同封)	学校での直接配布、 及び回収
調査期間	平成30年8月15日～ 平成30年10月17日	平成30年8月15日～ 平成30年10月17日	平成30年10月4日～ 平成30年10月17日
配布数	4,732	4,732	271
回収数	1,733	405	251
うち有効票数 (※2)	1,730	138	251
回収率	36.6%	—	92.6%

※1 行政区別の配布数については、次頁に示す。

※2 回答が一切なかった票を無効票として、回収数から無効票を除いた分を有効票数とする。
若者アンケートについては、15～22歳以外からの回答も無効票とする。

(3) アンケート調査（一般町民）回収数の信頼性について

アンケートに必要な回答者数は、アンケートの目的やアンケート結果の信頼度を、どのくらい高めたいかによって異なる。必要なサンプル数を、算出するにあたっては、誤差範囲や信頼度を検討しながら、算出を行う。

【サンプル数算出方法と記号の定義】

$$\frac{\frac{z^2 \times p(1-p)}{e^2}}{1 + \left(\frac{z^2 \times p(1-p)}{e^2 N}\right)}$$

文字	要素
N	人口サイズ
e	誤差範囲
z	信頼度
p	パーセント値

山元町の人口 12,276 人（平成 30 年 10 月末現在）を適用し、サンプル数を算出すると、以下の通りになる。

必要サンプル数		誤差範囲		
		3%	5%	10%
信 頼 度	90%	713	267	68
	95%	982	373	96
	99%	1,607	632	165

本調査では、1,730（有効票数）が得られており、山元町の人口に対する必要なサンプル数について、信頼度 99%として設定した場合の 1,607 を上回っており、高水準の信頼性が確保されているといえる。

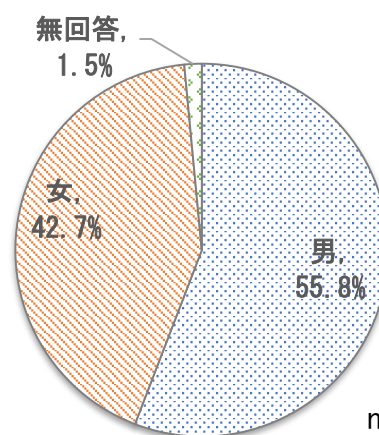
2 アンケート回答者の属性

(1) 一般町民アンケート

1) 性別

回答者の性別について、男性 55.8%、女性 42.7%となった。

	人数	割合
男	966	55.8%
女	738	42.7%
無回答	26	1.5%
総数	1,730	100.0%

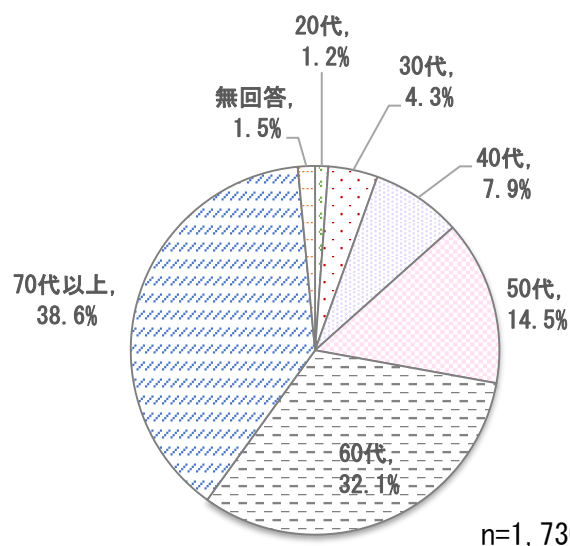


n=1,730

2) 年齢

回答者の年齢について、「70代以上」が 38.6%と最も高く、次いで「60代以上」が 32.1%となった。「20代」は 1.2%と低く、「10代」の回答者はなかった。

	人数	割合
10代	0	0.0%
20代	20	1.2%
30代	75	4.3%
40代	137	7.9%
50代	250	14.5%
60代	555	32.1%
70代以上	667	38.6%
無回答	26	1.5%
総数	1,730	100.0%

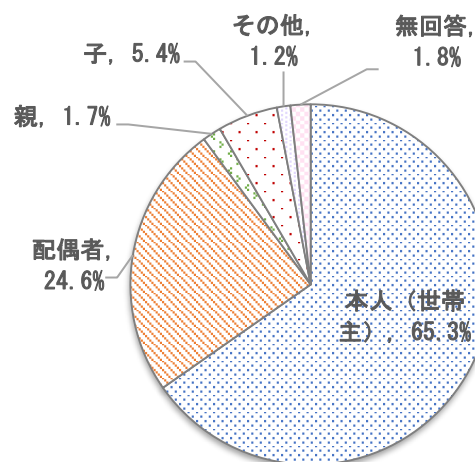


n=1,730

3) 世帯主からみた続柄

回答者の世帯主からみた続柄について、「本人（世帯主）」が 65.3%と最も高く、次いで「配偶者」が 24.6%となった。

	人数	割合
本人（世帯主）	1,130	65.3%
配偶者	425	24.6%
親	29	1.7%
子	93	5.4%
その他	21	1.2%
無回答	32	1.8%
	1,730	100.0%



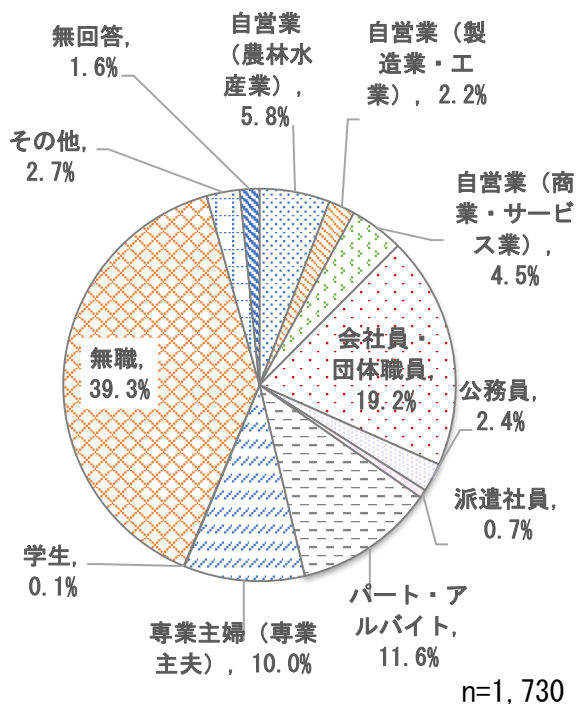
n=1,730

4) 職業

回答者の職業について、「無職」が39.3%と最も高く、次いで「会社員・団体職員」が19.2%となった。

「派遣社員」や「学生」は1%未満と低くなった。

	回答数	割合
自営業（農林水産業）	101	5.8%
自営業（製造業・工業）	38	2.2%
自営業（商業・サービス業）	77	4.5%
会社員・団体職員	332	19.2%
公務員	41	2.4%
派遣社員	12	0.7%
パート・アルバイト	200	11.6%
専業主婦（専業主夫）	172	9.9%
学生	1	0.1%
無職	680	39.3%
その他	47	2.7%
無回答	29	1.7%
総数	1,730	100.0%



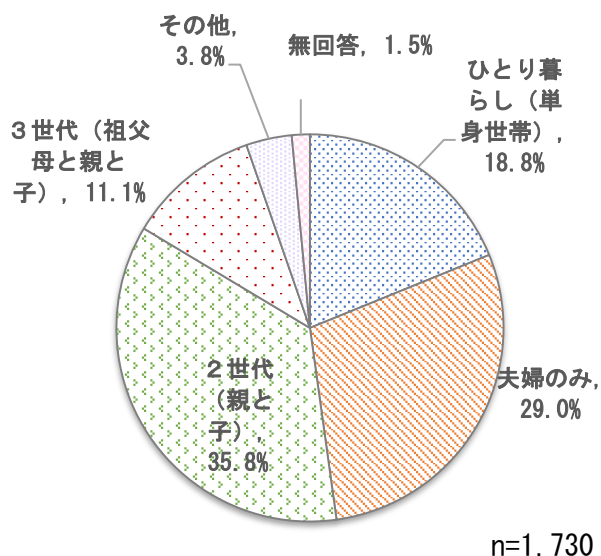
「その他」の回答として以下のようなものがあった。

・パートナースタッフ	・会社員と兼業農家	・家事手伝い
・医療関係	・臨時職員	

5) 世帯（家族構成）

回答者の世帯について、「2世代（親と子）」が35.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」29.0%となった。

	回答数	割合
ひとり暮らし（単身世帯）	326	18.8%
夫婦のみ	501	29.0%
2世代（親と子）	619	35.8%
3世代（祖父母と親と子）	192	11.1%
その他	66	3.8%
無回答	26	1.5%
総数	1,730	100.0%



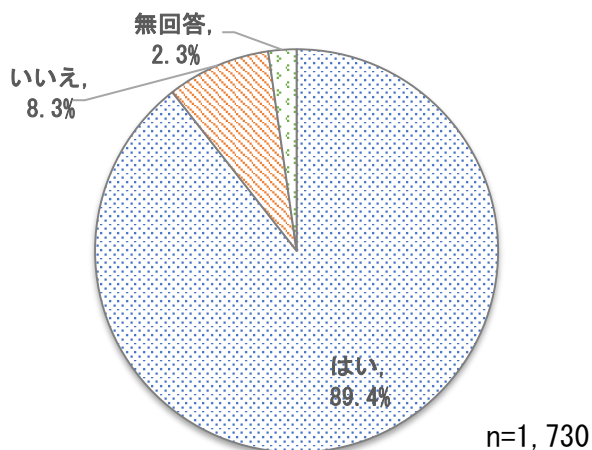
「その他」の回答として以下のようなものがあった。

・叔父や叔母、兄弟などと同居	・4世代
・施設入居	

6) 震災以前の居住

震災以前の居住について、89.4%が震災前から山元町に住んでいると答えた。

	回答数	割合
はい	1,547	89.4%
いいえ	144	8.3%
無回答	39	2.3%
総数	1,730	100.0%

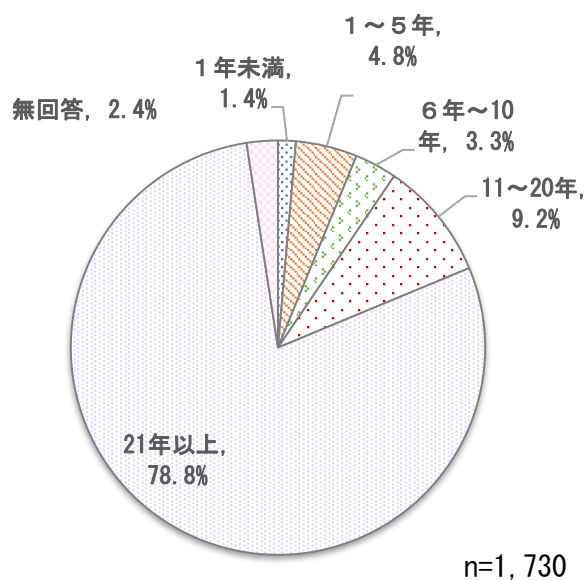


7) 居住年数

山元町での居住年数について、「21年以上」が78.8%と最も高く、次いで「11から20年」が9.2%となった。

「1年未満」「1から5年」「6年から10年」は5%未満と低くなった。

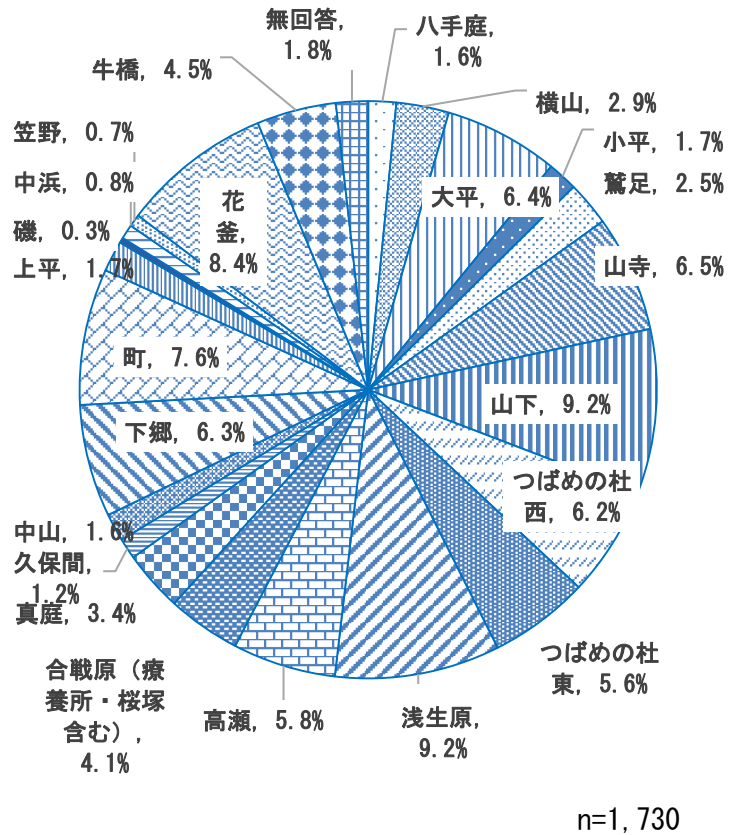
	回答数	割合
1年未満	24	1.4%
1から5年	83	4.8%
6年から10年	57	3.3%
11から20年	160	9.2%
21年以上	1,364	78.8%
無回答	42	2.4%
総数	1,730	100.0%



8) 居住地区

回答者の居住地区については、以下のようになった。

	世帯数	回答数	割合※
八手庭	71	27	1.6%
横山	138	51	2.9%
大平	257	111	6.4%
小平	98	29	1.7%
鷲足	122	43	2.5%
山寺	264	113	6.5%
山下	549	159	9.2%
つばめの杜西	264	107	6.2%
つばめの杜東	265	97	5.6%
浅生原	403	160	9.2%
高瀬	266	100	5.8%
合戦原（療養所・桜塚含む）	106	71	4.1%
真庭	180	59	3.4%
久保間	77	20	1.2%
中山	71	27	1.6%
下郷	281	109	6.3%
町	298	132	7.6%
上平	90	30	1.7%
磯	20	5	0.3%
中浜	29	14	0.8%
笠野	30	12	0.7%
花釜	456	146	8.4%
牛橋	234	77	4.5%
無回答		31	1.8%
総数	4,732	1,730	100.0%

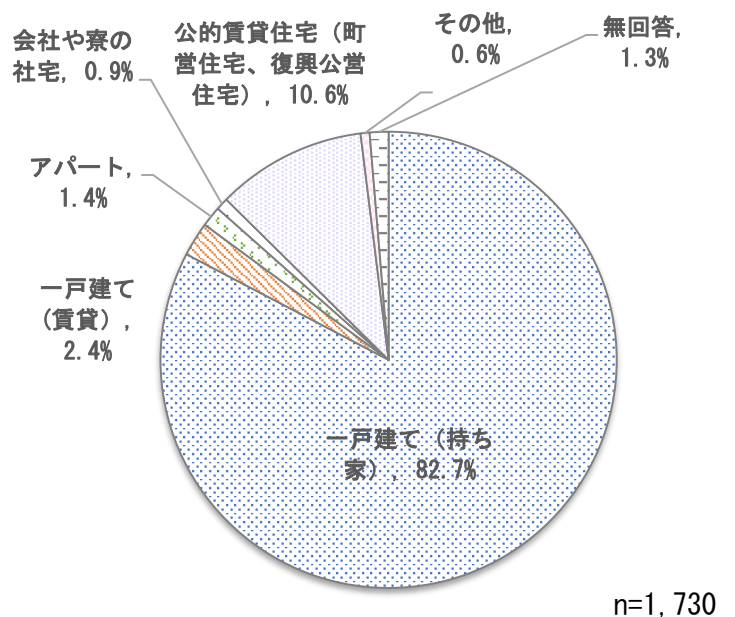


※割合は、回収総数に占める各居住地区の回答数の割合を示す。

9) 住宅の形式

住んでいる住宅の形式について、「一戸建て（持ち家）」が82.7%と特に高く、次いで「公的賃貸住宅（町営住宅、復興公営住宅）」が10.6%となり、それ以外の項目は3%以下となった。

	回答数	割合
一戸建て（持ち家）	1,430	82.7%
一戸建て（賃貸）	42	2.4%
アパート	25	1.4%
会社や寮の社宅	15	0.9%
公的賃貸住宅（町営住宅、復興公営住宅）	184	10.6%
その他	11	0.6%
無回答	23	1.3%
総数	1,730	100.0%

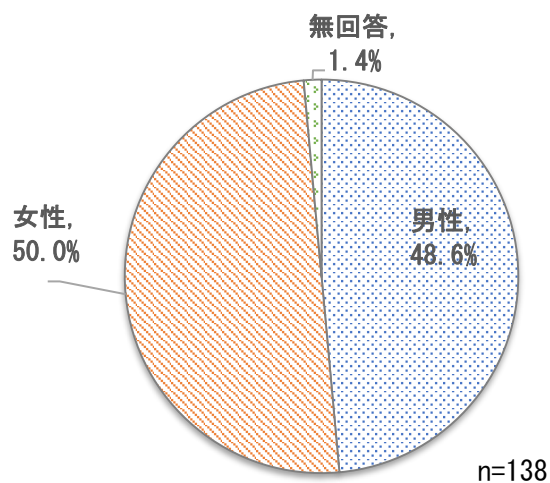


(2) 若者アンケート

1) 性別

回答者の性別は以下のとおりである。

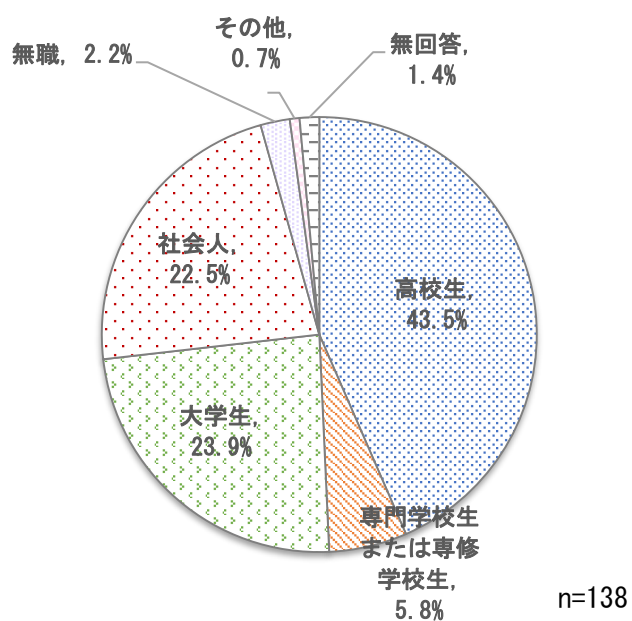
	回答数	割合
男性	67	48.6%
女性	69	50.0%
無回答	2	1.4%
総数	138	100.0%



2) 所属

回答者の所属は以下のとおりである。

	回答数	割合
高校生	60	43.5%
専門学校生または専修学校生	8	5.8%
大学生	33	23.9%
社会人	31	22.5%
無職	3	2.2%
その他	1	0.7%
無回答	2	1.4%
総数	138	100.0%

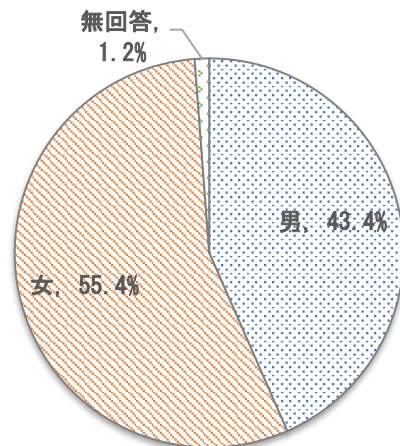


(3) 中学生アンケート

1) 性別

回答者の性別は以下のとおりである。

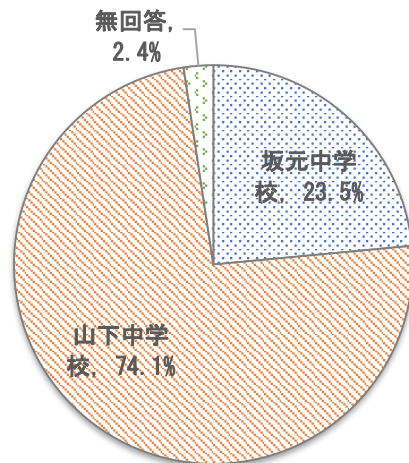
	回答数	割合
男	109	43.4%
女	139	55.4%
無回答	3	1.2%
総数	251	100.0%



2) 通っている中学校

回答者の通っている中学校は以下のとおりである。

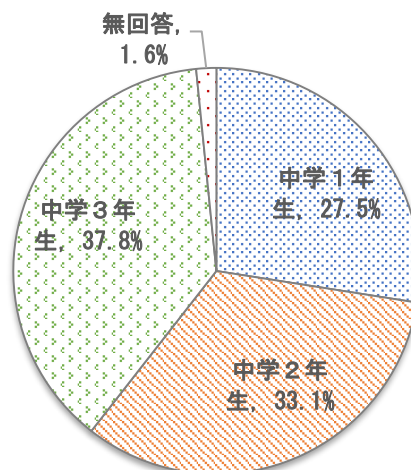
	回答数	割合
坂元中学校	59	23.5%
山下中学校	186	74.1%
無回答	6	2.4%
総数	251	100.0%



3) 学年

回答者の学年は以下のとおりである。

	回答数	割合
中学1年生	69	27.5%
中学2年生	83	33.1%
中学3年生	95	37.8%
無回答	4	1.6%
総数	251	100.0%



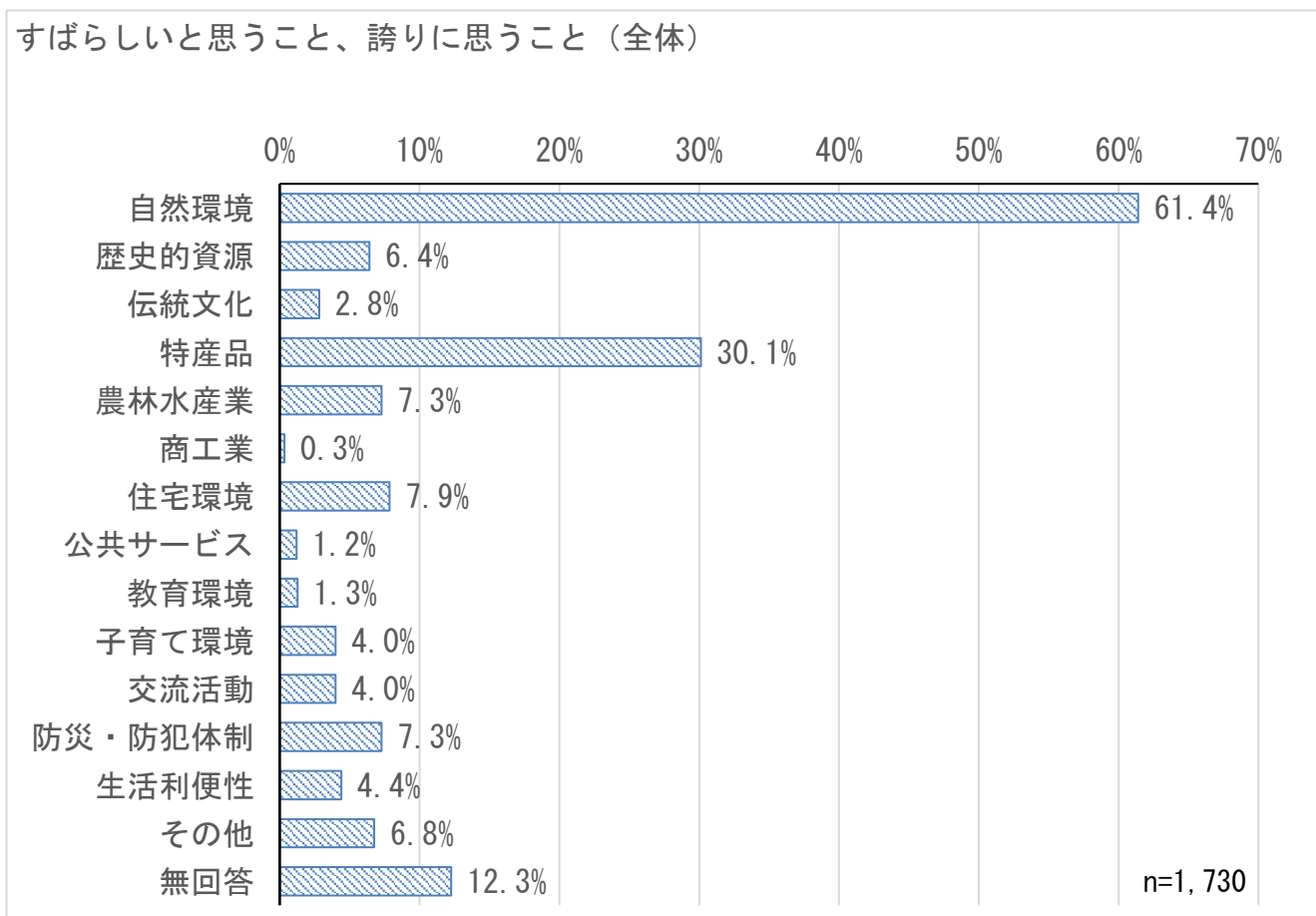
3 町のイメージについて

(1) すばらしいこと・誇りに思うこと（一般町民）

山元町のすばらしいと思うこと・誇りに思うことについて、「自然環境」の項目が61.4%と最も高くなり、次いで「特産品」が30.1%となった。

低かった項目としては、「商工業」が0.3%と最も低く、次いで「公共サービス」「教育環境」「伝統文化」が、1%程度となった。

年齢別に見ると、「自然環境」はすべての年代で高い回答割合となった。20代から30代の若い世代で「特産品」の回答割合が高く、60代から70代以上の高齢層では「歴史的資源」の回答割合が比較的高くなった。

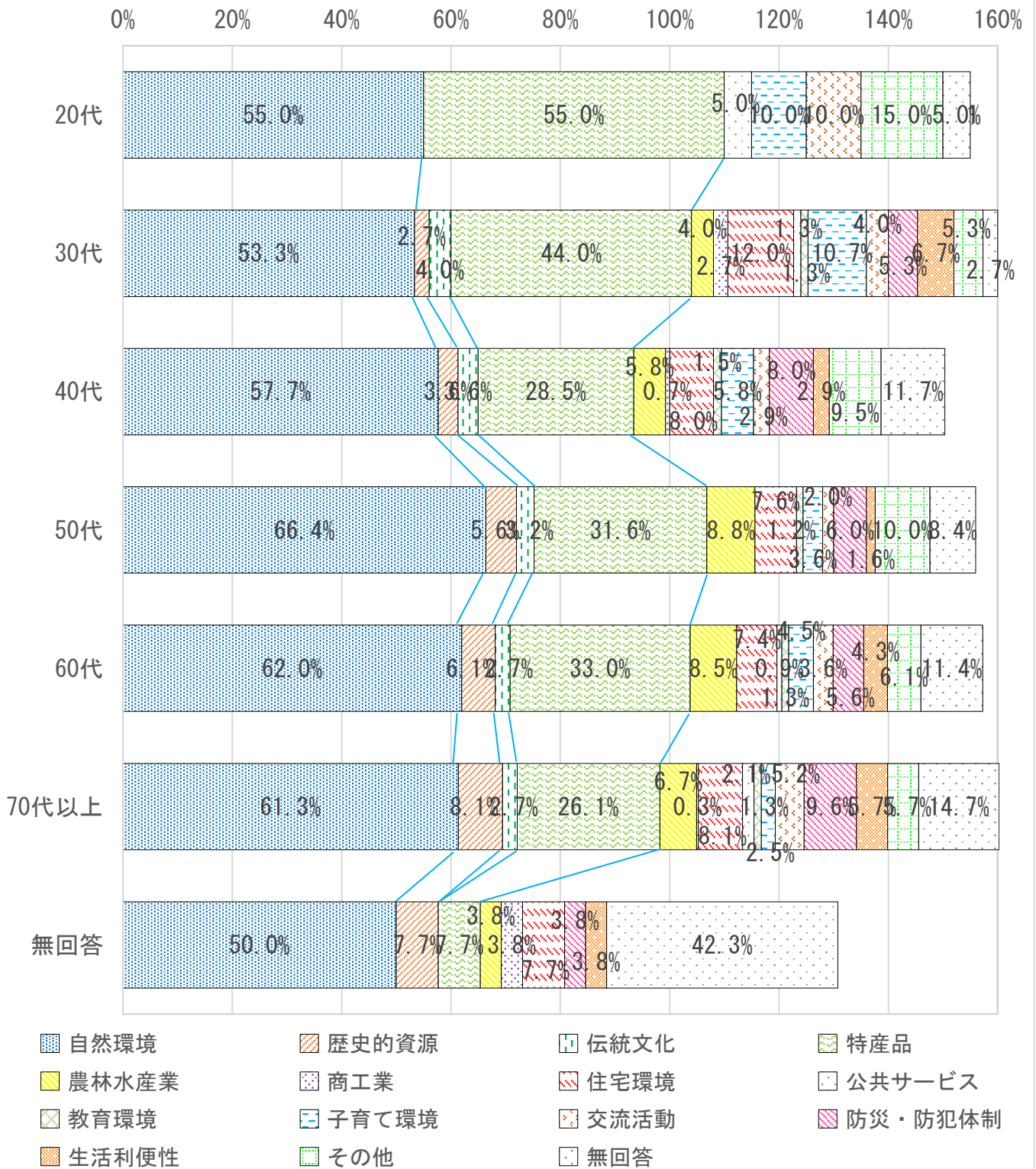


※複数回答のため合計100%にならない

その他の意見として以下のようなものがあった。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ・顔が見える関係 | ・となり同士の信頼性 |
| ・コミュニティ | ・すばらしいとも誇りにも思わない。 |
| ・人とのつながり | ・交通の便、JR、NEXCO |
| ・役場職員が親切 | ・家の回りにあまり家が無い事 |
| ・仙台まで乗り替えなしで行ける事 | ・新山下駅前の環境 |

すばらしいと思うこと・誇りに思うこと（年齢別）

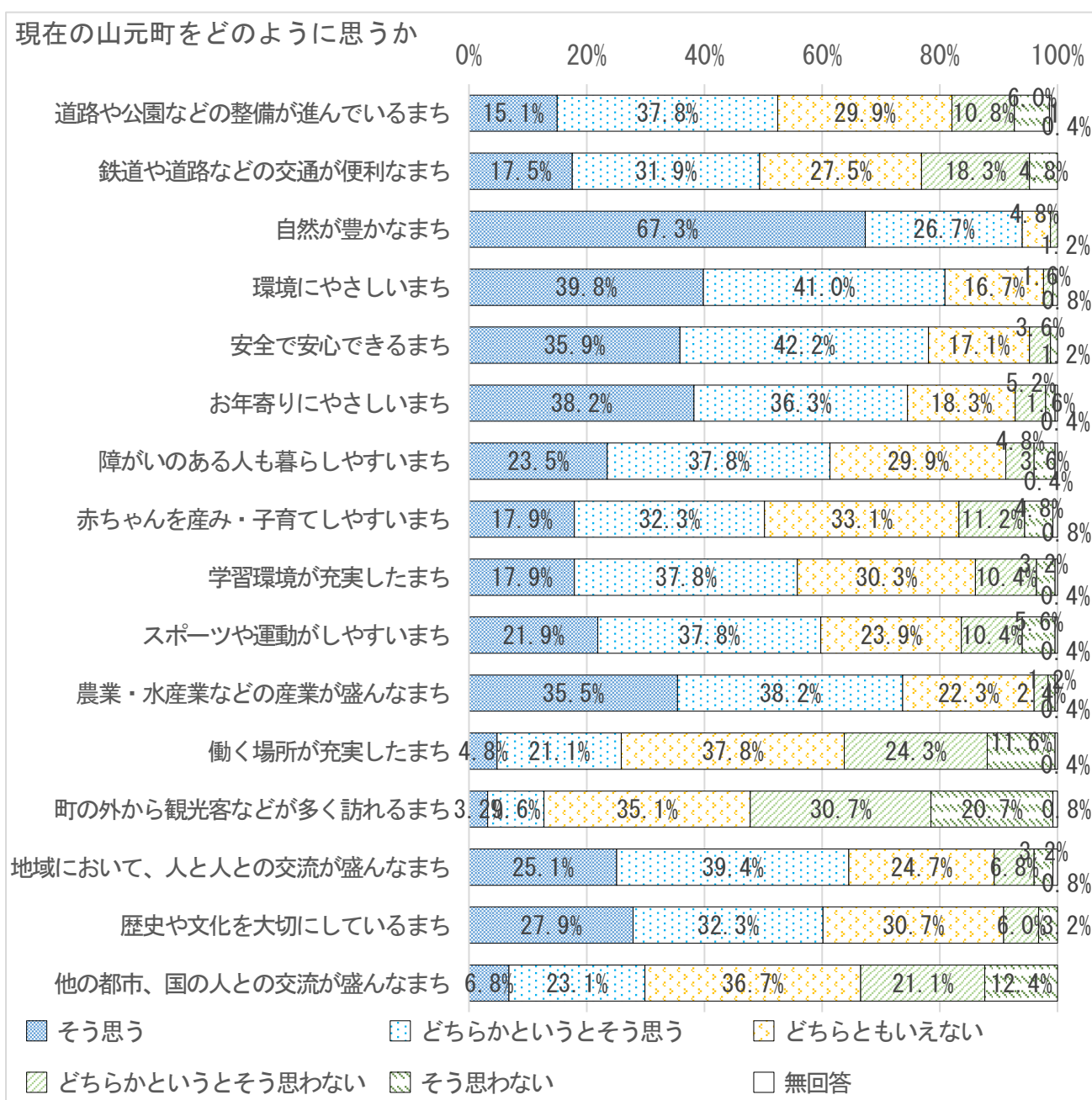


(2) 現在の山元町のイメージ (中学生)

1) 現在の山元町について

現在の山元町について、どのように思うかについて、「そう思う」「どちらかというと思う」の合計の回答割合が最も高かったのは、「自然豊かな町」となり、94.0%が山元町を自然豊かなまちと思っている結果となった。次いで高かったのは、「環境にやさしいまち」の80.8%、「安全で安心できるまち」の78.1%となった。

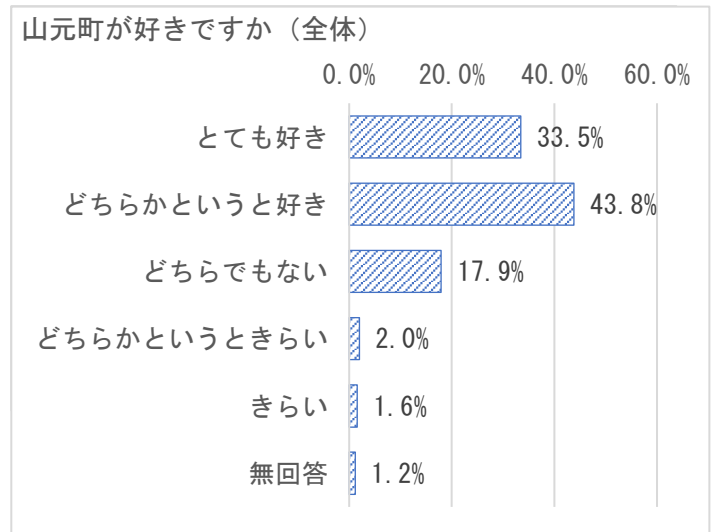
一方、「そう思わない」「どちらかというと思わない」を足した回答割合が最も高かったのは「町の外から観光客などが多く訪れる町」が50.4%となり、半数以上が山元町を観光客が多く訪れないまちと思っている結果となった。次いで高かったのは「働く場所が充実したまち」の35.9%、「他の都市、国の人との交流が盛んなまち」の33.5%となった。



2) 山元町の好きな理由

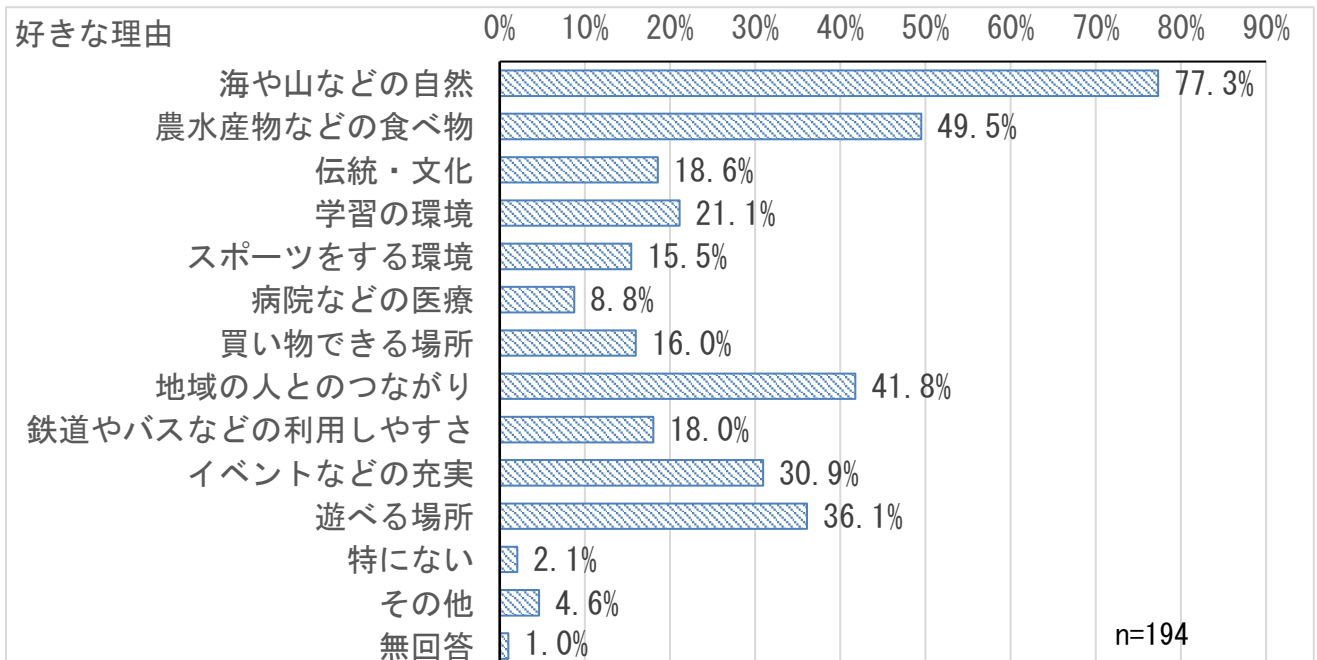
山元町が好きかについて、「とても好き」、「どちらかという好き」を合わせると、77.3%に達している。

	回答数	割合
とても好き	84	33.5%
どちらかという好き	110	43.8%
どちらでもない	45	17.9%
どちらかというときらい	5	2.0%
きらい	4	1.6%
無回答	3	1.2%
総数	251	100.0%



【「好き」「どちらかという好き」を選んだ場合の理由】

山元町を「好き」または「どちらかという好き」である理由について、「海や山などの自然」が77.3%と最も高く、次いで「農水産物などの食べ物」が49.5%となった。山元町を「好き」または「どちらかという好き」である理由について、「海や山などの自然」が77.3%と最も高く、次いで「農水産物などの食べ物」が49.5%となった。



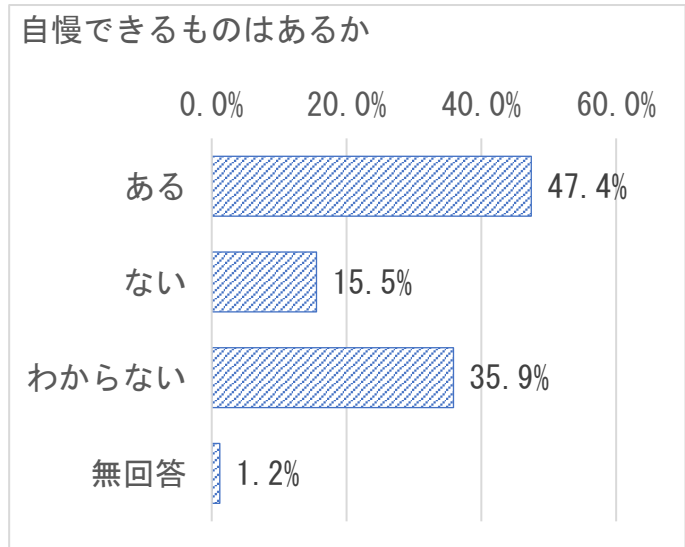
その他の意見

- ・ 空気が良い
- ・ 地域の方々の優しさ、温かさ
- ・ 静かな雰囲気
- ・ 田舎と都会の中間
- ・ ずっと住んでいるから

3) 山元町で自慢できるもの

山元町に自慢できるものはあるかについて、「ある」が47.4%と最も高く、次いで「わからない」の35.9%となった。「ない」の回答は15.5%となった。

	回答数	割合
ある	119	47.4%
ない	39	15.5%
わからない	90	35.9%
無回答	3	1.2%
総数	251	100.0%



【その理由】

山元町に自慢できるものがあると答えた理由として、以下のようなものがあった。

★：記述された数が10個以上あった意見内容の項目

☆：記述された数が5から9個あった意見内容の項目

○：記述された数が1から4個あった意見内容の項目

分類	意見
食べ物や特産品について	★おいしい食べ物がたくさんある ★イチゴやホッキ、はらこめしなどのおいしい特産品が豊富 ○ギョウザがものすごくおいしい、金ちゃんラーメン
自然環境について	★自然が豊かなところ ☆人がごちゃごちゃしてなくて空気がおいしい ☆空気が澄んでいて、星空が綺麗だから ○海風がきもちよい ○紅葉がきれい（深山など）
地域の人とのつながりについて	★地域の人がとても優しい。 ☆人々との交流の場が多いこと ○道ですれ違っただけでもあいさつを交わすこと ○地域の基盤が小さいから、知っている人が多く、つながりが深いこと ○地域みんなが協力していること
イベントや行事について	☆たくさんのイベントがあり、充実している ○産業祭などのイベントで山元町の良いところを多くの人にPRできる ところ ○季節ごとに祭りがたくさん行われている町 ○面白いイベントがある
まちづくり街並みについて	○「復興」というものについてとても集中的にしているところ ○施設や公園などが新しい ○自由に借りて遊べる場所などがある。 ○駅がある

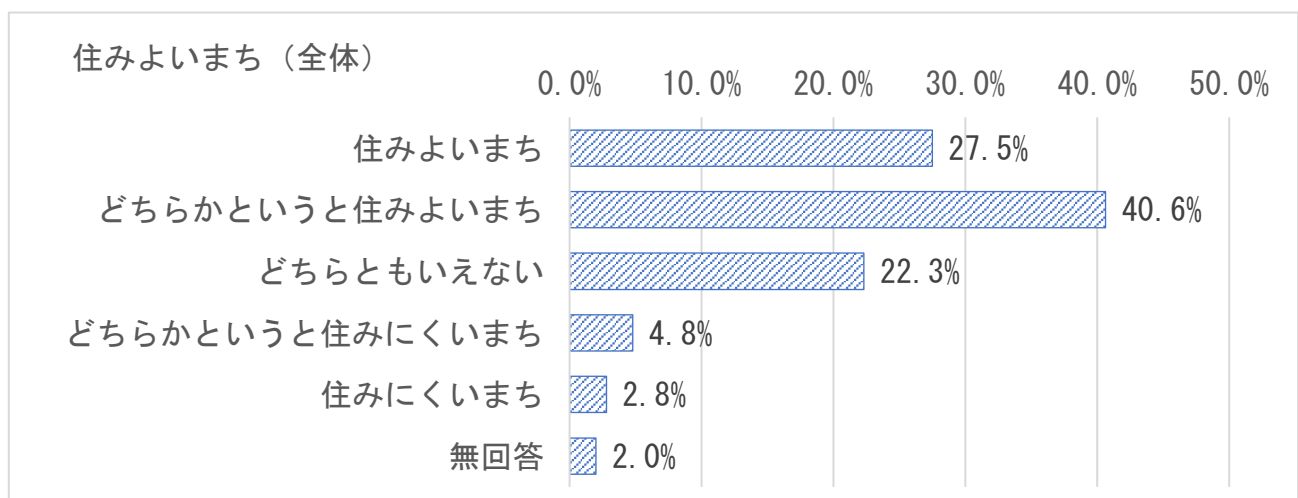
	○静かで高齢の方に優しい町 ○活気あふれる町 ○山下中学校が立派
気候 について	○自然現象による被害が少ない ○一年中過ごしやすい気温だから
その他	○遺跡が多い ○ごみ、騒音 ○逆に何も無い所 ○医療費がかからないところ ○農業が盛ん

4) 山元町のまちづくりについて

山元町の住みよさについて、「どちらかという住みよいまち」が40.6%と最も高く、次いで「住みよいまち」が27.5%となった。「住みよいまち」及び「どちらかという住みよいまち」を合わせた回答は、合計で68.1%となっている。

一方、「住みにくいまち」「どちらかという住みにくいまち」は5%未満と少なくなった。

	回答数	割合
住みよいまち	69	27.5%
どちらかという住みよいまち	102	40.6%
どちらともいえない	56	22.3%
どちらかという住みにくいまち	12	4.8%
住みにくいまち	7	2.8%
無回答	5	2.0%
総数	251	100.0%



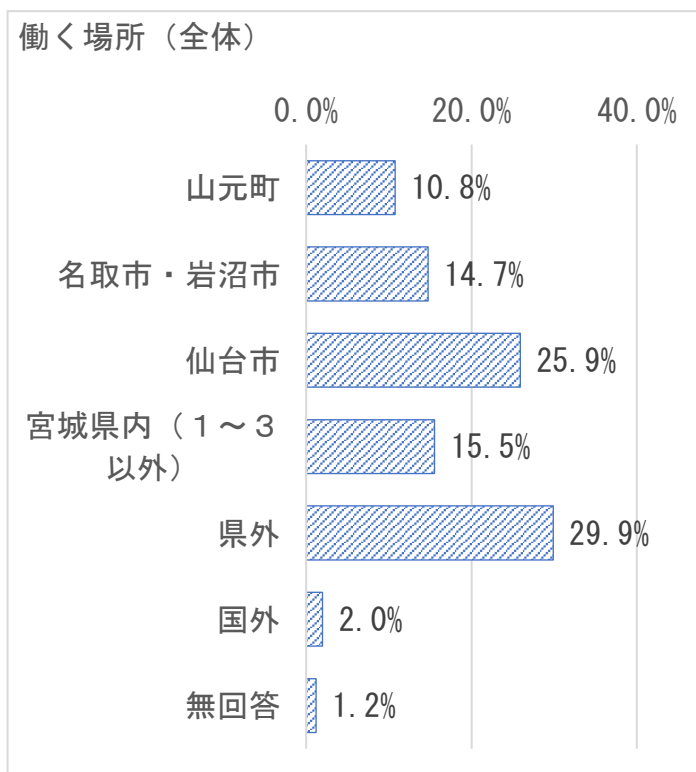
5) 希望する働き先

大人になったらどこで働きたいですか？

大人になったらどこで働きたいかについて、「県外」29.9%と最も高く、次いで「仙台市」の25.9%となった。

最も少なかったのは「国外」の2.0%となり、次いで「山元町」の10.8%となった。

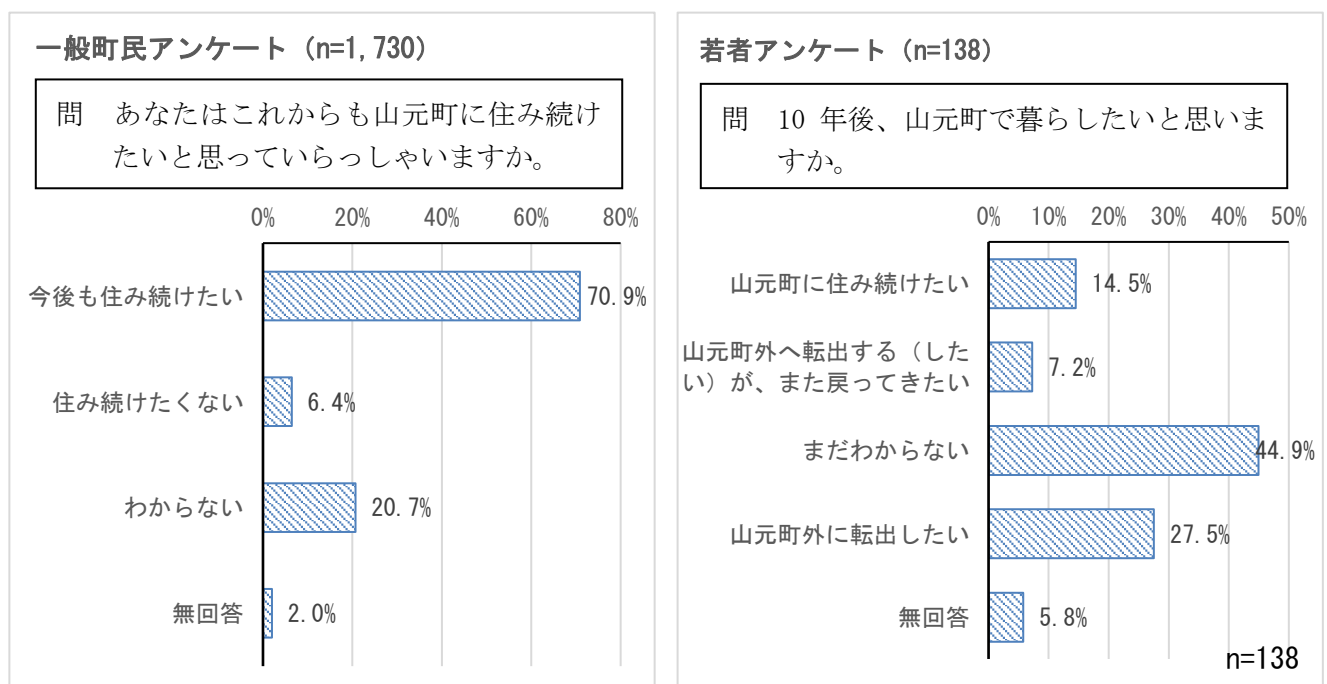
	回答数	割合
山元町	27	10.8%
名取市・岩沼市	37	14.7%
仙台市	65	25.9%
宮城県内 (1から3以外)	39	15.5%
県外	75	29.9%
国外	5	2.0%
無回答	3	1.2%
総数	251	100.0%



4 居住継続意向について

(1) 一般町民と若者の居住継続意向の比較

今後の居住継続意向について、一般町民と若者で比較すると、60歳以上の回答が多い一般町民アンケートでは「今後も住み続けたい」という回答が7割を超えている。一方で、若者アンケートでは、「山元町に住み続けたい」が14.5%、「山元町外へ転出（したい）が、また戻ってきたい」が7.2%と、10年後山元町に住みたいと考える若者は約2割程度にとどまっている。一方で、最も割合が高かったのは、「まだわからない」の44.9%であり、この層が山元町に住みたいという意向に切り替わっていくことが重要である。



町民全体と若者では、居住継続意向が大きく異なる。
10年後、山元町で暮らすか「まだわからない」若者が多い。

- 町民にとってどのようなまちづくりの満足度が高いのか。
- 住み続けたいと考える人が増えてもらうために、どのような課題を解決しなければならないか。
- 将来の山元町を担う若者が、これからも山元町で暮らし続けたいと思えるようにするためには、どのようなまちづくりが必要か。

- まちづくりに対する町民の現在の満足度、将来の必要度の分析
- 若者が求める将来像やニーズの把握

5 まちづくりに対する町民の現在の満足度、将来の必要度の分析

(1) 分析の目的

「まちづくりに対する町民の現在の満足度、将来の必要度の分析」では、町の実施している取組に対して、「平成 23 年度～現在のまちづくりの満足度（以下、満足度）」と「将来の必要度（以下、必要度）」における町民の評価を把握・分析し、各項目に対する今後の対策の方向性を検討するものである。

(2) アンケート記入方法

アンケート調査において、51 の取組内容に対して、「満足度」と「必要度」それぞれ 5 段階で評価してもらった。

問 12 町が実施している取組内容（施策等）について、①平成 23 年度から現在にかけて実施したまちづくりの満足度と、②将来の必要度についてお尋ねします。それぞれの取組内容（施策等）ごとに当てはまるもの 1 つに○をつけてください。

満足度・必要度		①平成 23 年度～現在のまちづくりの満足度					②将来の必要度					
		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	必要	やや必要	どちらでもない	やや不要	不要	
取組内容（施策等）												
（回答例） ○○の整備		5	4	3	②	1	5	④	3	2	1	
まちづくり 環境	1 道路・橋梁・河川の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	2 公園・緑地の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	3 上下水道の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	4 生活排水対策	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	5 公営住宅の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	6 住宅地の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	7 町民バスなどの公共交通の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	8 高速道路の利便性	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	9 日常の買物の便利さ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	10 ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	11 騒音・振動・悪臭等の環境	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	12 美しい自然景観や街並み景観の形成	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	13 自然環境の保全と活用	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	14 中心市街地や公共ゾーンの整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	
	15 駅前広場などの整備	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	

図 アンケート表一部抜粋

(3) 分析フロー

入力したアンケートは、以下のフローにより分析を行う。

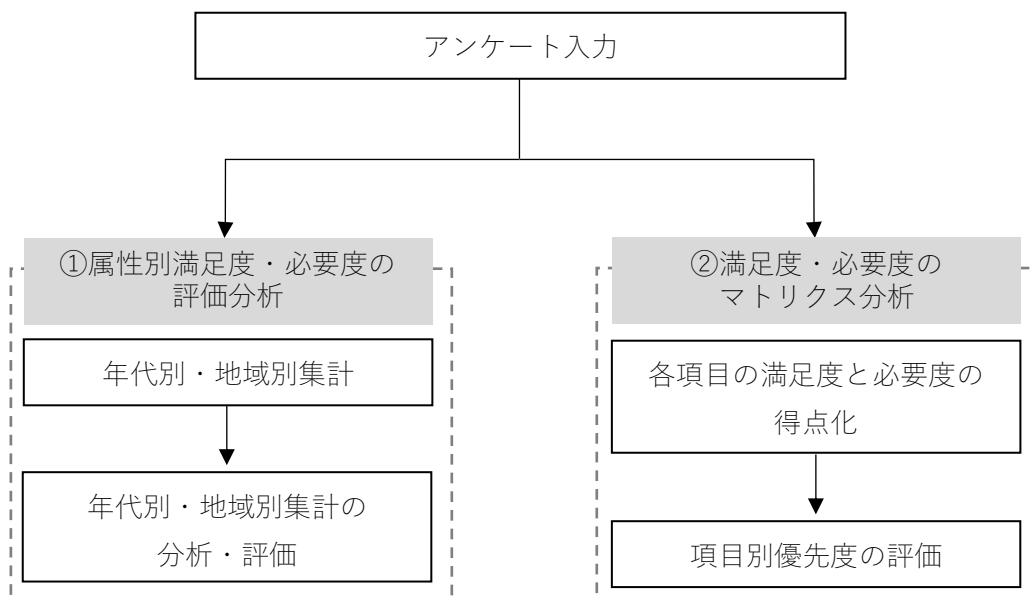


図 分析フロー

(4) 平均得点算出方法

平均得点を算出するにあたり、満足度・必要度それぞれにおいて項目間の差を明確にするために、重み付けをして算出を行った。算出方法は以下のとおりである。

(満足度の場合)

$$\text{平均得点} = (5 \times (\text{「満足」回答者数}) + 4 \times (\text{「やや満足」回答者数}) + 3 \times (\text{「どちらでもない」回答者数}) + 2 \times (\text{「やや不満」回答者数}) + 1 \times (\text{「不満」回答者数})) \div \text{回答者総数}$$

※集計にあたっては、一部の項目のみに回答がある場合も集計対象としたため、項目別の回答数が異なる場合がある。また、無回答の項目は、算出の対象外とした。

(5) まちづくりに対する満足度評価の概要

■全体の傾向

- 全体で最も満足度が高い項目は、「高速道路の利便性」で 3.89、最も満足度が低い項目は、「町民バスなどの公共交通の便利さ」で 2.37 となった。
- 「くらし・環境」に分類される項目の得点が高い一方で、「産業」に分類される項目の得点が低い傾向にある。

■年代別の傾向

- 「公園・緑地の整備」や「高速道路の利便性」、「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」、「騒音・振動・悪臭等の環境」、「美しい自然景観や街並み景観の形成」、「中心市街地や公共ゾーンの整備」、「駅前広場などの整備」は、すべての年代において満足度が高い結果が得られた。
- 全体の傾向として、20代や30代の満足度は、60代以上の満足度よりも高い傾向にある。
- 「上下水道の整備」や「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」、「駅前広場などの整備」、「健康づくりの推進」、「保健・医療福祉サービスの充実」は、70代以上での満足度が、他の項目に比べると高くなっている。

■震災前の居住の有無別の傾向

- 震災前に山元町に住んでいた人と、住んでいなかった人では、項目でそれほど大きな差はみられなかったが、全体的に震災前に山元町に住んでいなかった人の方が、満足度が高い傾向にある。

■居住年数別の傾向

- 票数は少ないものの、「定住促進」や「子育て支援サービスの充実」など、居住年数が「1年未満」の人の満足度が高い。
- 「健康づくりの推進」においては、「11年以上」山元町に住んでいる人で、平均の 3.0 点を上回っているが、「10年未満」の人は低い傾向にある。

(6) まちづくりに対する必要度評価の概要

■全体の傾向

- 全体で最も必要度が高い項目は、「雇用の場の確保」で 4.28、最も必要度が低い項目は、「公営住宅の整備」で 3.49 となった。
- 「高齢者福祉サービスの充実」や「保健・医療サービスの充実」など、医療・福祉に関連する項目も必要度が高い傾向にある。

■年代別の傾向

- ほぼすべての項目で平均得点が 3 ポイント (平均) 以上であり、町民にとって取り組む必要があるという認識であるという結果が得られた。
- 「町民バスなどの公共交通の便利さ」や「日常の買物の便利さ」はどの年代でもポイントが高い。
- 「子育て・教育」に分類される項目は、20・30 代など、若い世代でポイントが高い傾向にある。

■震災前の居住の有無別の傾向

- 震災前に山元町に住んでいた人と、住んでいなかった人では、項目でそれほど大きな差はみられなかったが、全体的に震災前に山元町に住んでいなかった人の方が、必要度が高い傾向にある。特に、「定住促進」や「空き家・空地活用の推進」の得点が高い。

■居住年数別の傾向

- 居住年数が短い人にとって、「高速道路の利便性」や「美しい自然景観や街並み景観の形成」、「定住促進」の得点が、他の居住年数と比較すると得点が高い。
- 全体的に、「6 年～10 年」の人の必要度が低い傾向にある。

図 全体の満足度・必要度のクロス評価

下図は、「現在の満足度」と「将来の必要度」の平均得点を折れ線で示している。横軸の項目については、必要度と満足度の差を算出し、その差が大きい順に示している。例えば、満足度が低く、必要度が高い場合には、ポイントの差は大きくなり、取組の重要性が高いといえる。

結果として、最も取組の重要性が高い項目は、「雇用の場の確保」(差：1.83ポイント)となった。次いで、「企業誘致などの工業振興」、「空き家・空き地活用の推進」、「町民バスなどの公共交通の便利さ」、「日常の買物の便利さ」、「起業支援の推進」等が上位に挙がっている。これらの項目は、全体として町民の満足度も低く、町民のニーズに対応しきれていない分野であるといえる。一方で、「高速道路の利便性」や「駅前広場などの整備」、「公営住宅の整備」、「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」、「騒音・振動・悪臭等の環境」については、満足度と必要度の差が小さく、これまでの取組として、町民のニーズに応えられていると考えられる。

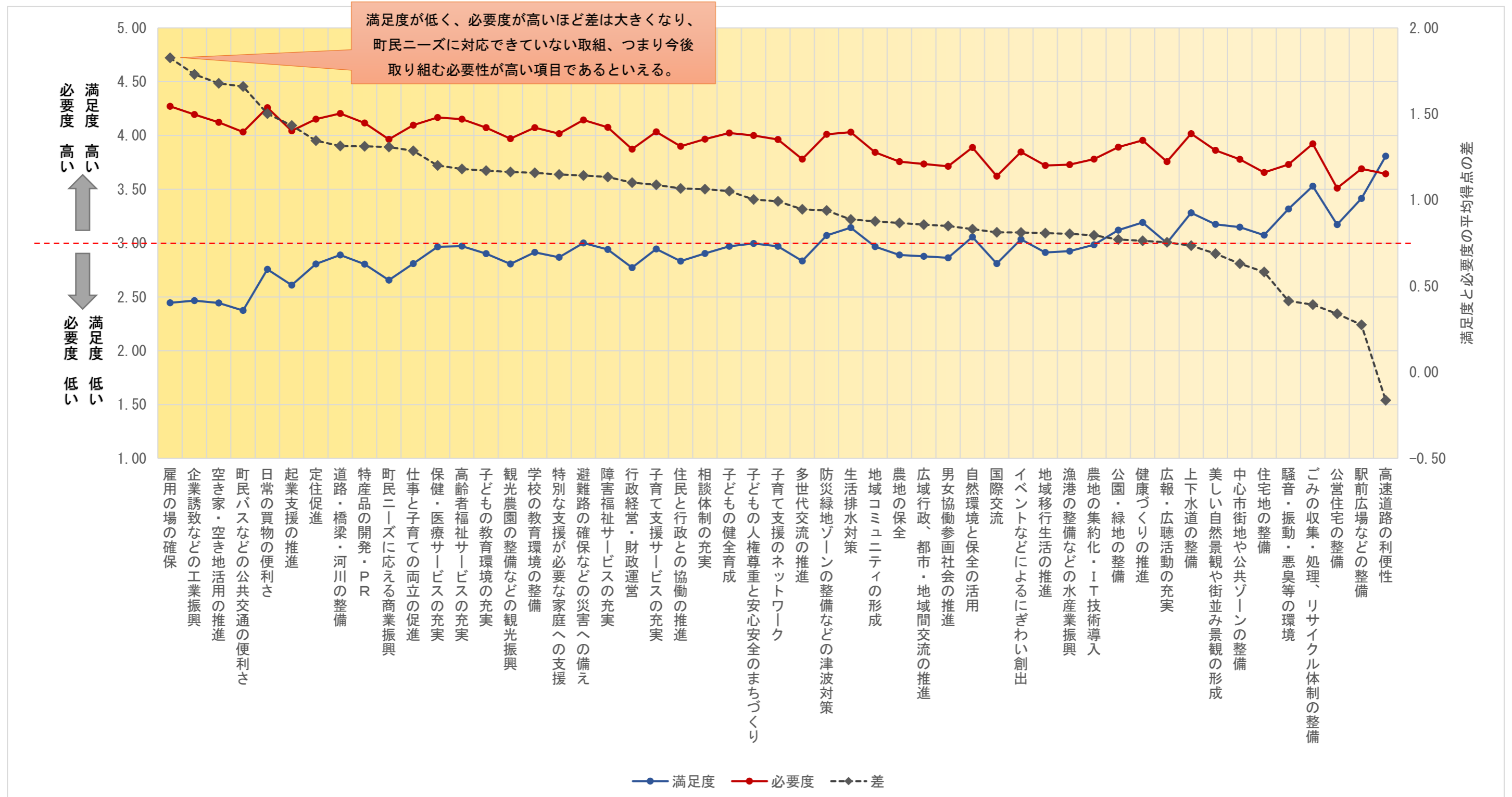


図 満足度平均得点（年代別）

「公園・緑地の整備」や「高速道路の利便性」、「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」、「騒音・振動・悪臭等の環境」、「美しい自然景観や街並み景観の形成」、「中心市街地や公共ゾーンの整備」、「駅前広場などの整備」は、すべての年代において満足度が高い結果が得られた。

全体の傾向として、20代や30代の満足度は、60代以上の満足度よりも高い傾向にある。そのなかで、「上下水道の整備」や「ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備」、「駅前広場などの整備」、「健康づくりの推進」、「保健・医療福祉サービスの充実」は、70代以上での満足度が、他の項目に比べると高くなっている。

※横軸は、分類ごとの項目順で示す。

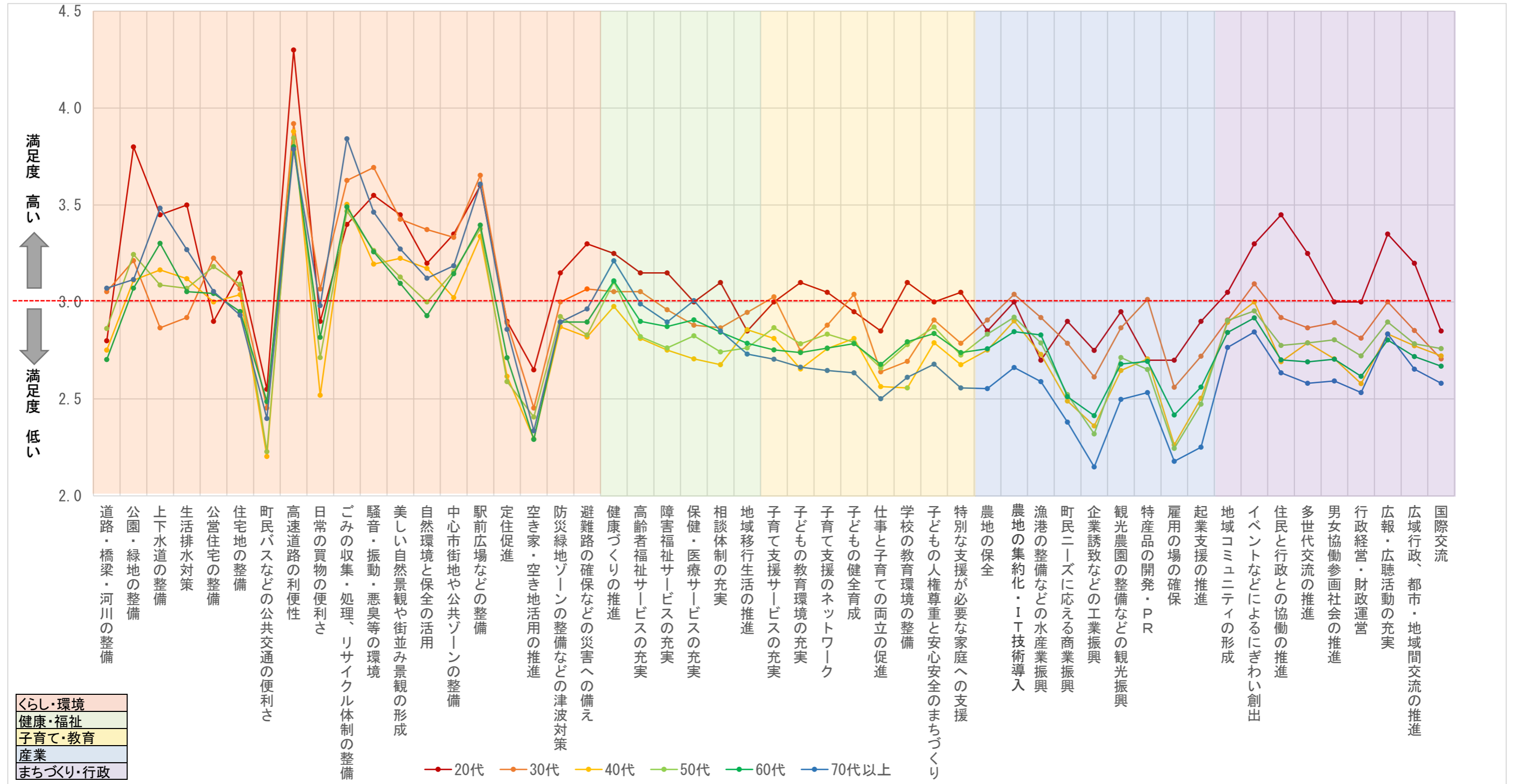


図 必要度平均得点（年代別）

20代の「上下水道の整備」を除いて、すべての項目で平均得点が3ポイント以上であり、町民にとって取り組む必要があるという認識であるという結果が得られた。そのなかでも、「町民バスなどの公共交通の便利さ」や「日常の買物の便利さ」はどの年代でもポイントが高い。そのほか、「子育て・教育」に分類される項目は、20・30代など、若い世代でポイントが高い傾向にある。

※横軸は、分類ごとの項目順で示す。

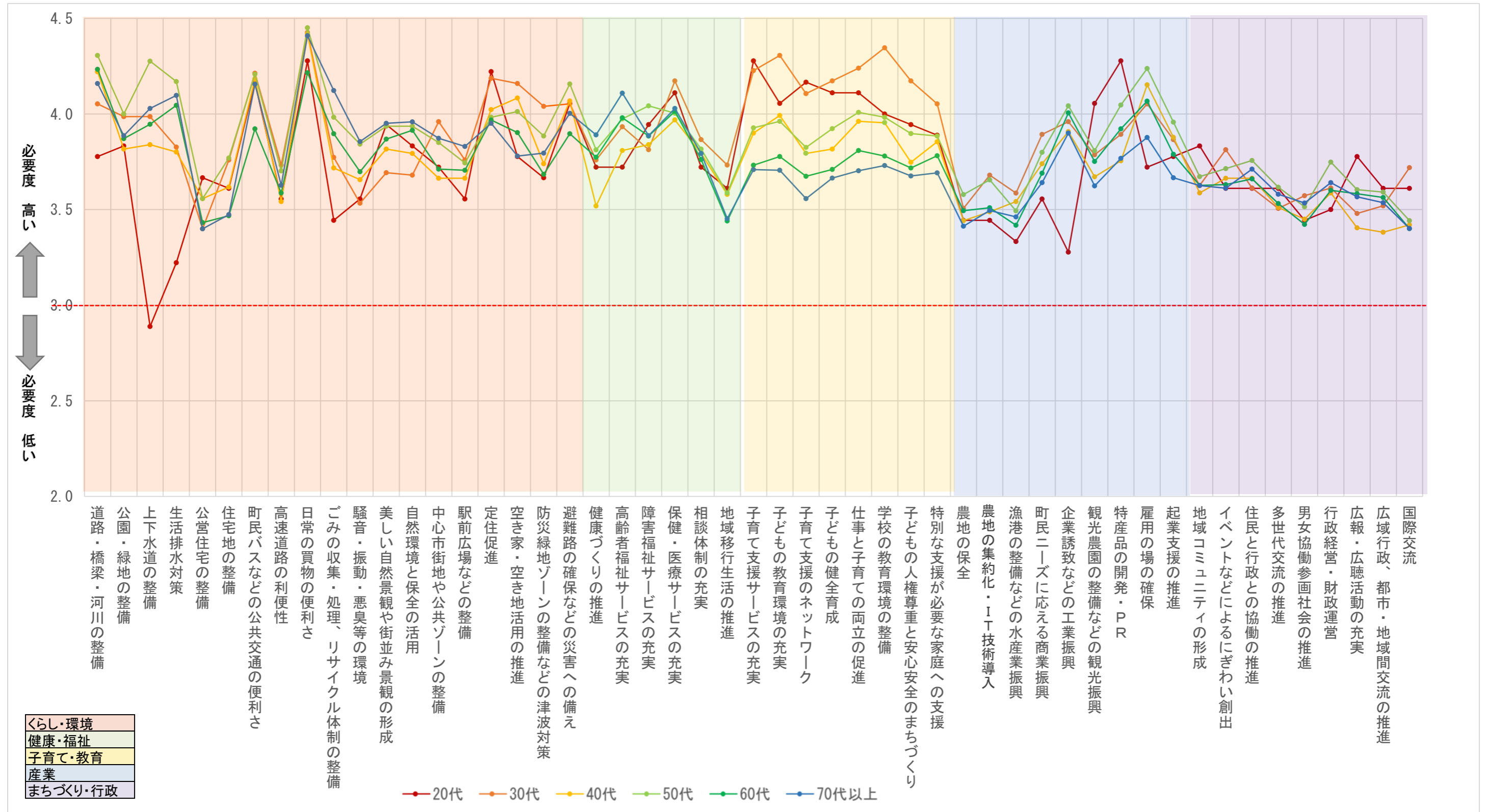


図 満足度平均得点（震災前の居住の有無）

ほぼすべての項目で、「いいえ（震災以降に住み始めた）」の平均満足度は「はい（震災前から住んでいる）」を上回る結果となり、数は少ないが、「上下水道の整備」「健康づくりの推進」「保健・医療サービスの充実」の項目では、震災以降から住んでいる町民の満足度が、震災以前から住んでいる町民の満足度の平均得点を上回っている。くらし・環境に関連する項目では「町民バスなどの公共交通の便利さ」や「空き家・空き地活用の推進」など、満足度が著しく低い項目はあるが、比較的満足度は高く、子育て・教育や産業に関する項目では、すべての項目で3ポイントを下回り、満足度は低くなっている。

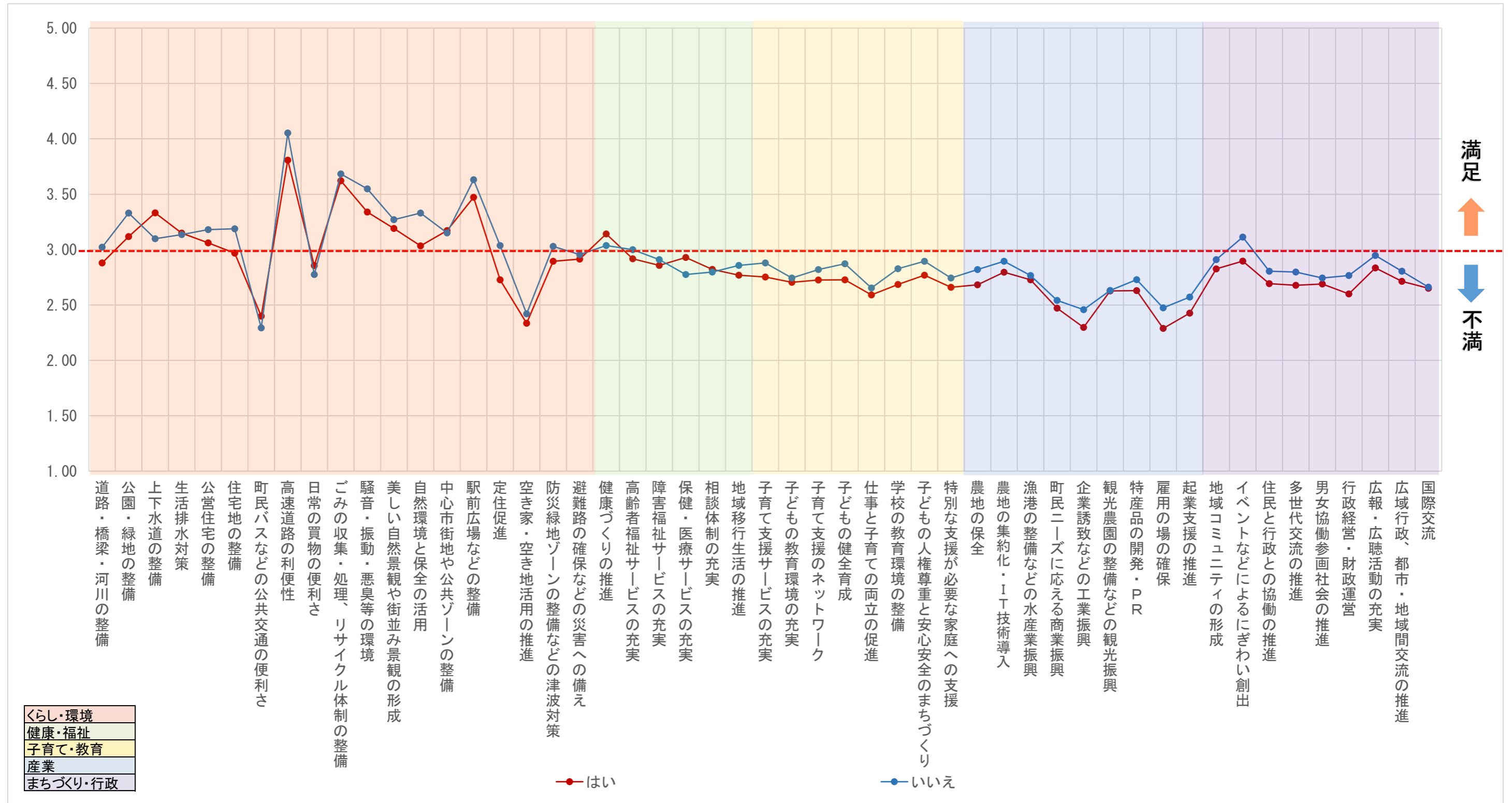


図 必要度平均得点（震災前の居住の有無）

すべての項目で、平均得点が3ポイントを上回り、将来に向け、すべての項目が必要とされていることが明らかとなった。特に「町民バスなどの公共交通の便利さ」「日常の買い物の便利さ」「生涯福祉サービスの充実」「雇用の場の創出」は、「はい（震災前から住んでいる）」と「いいえ（震災以降に住み始めた）」の双方が必要度を4ポイント以上となっており、特に必要とされていることが分かった。震災以前の居住による必要度の差は、くらし・環境に関する項目で比較的大きく、「公共住宅の整備」「町民バスなどの公共交通の便利さ」「美しい自然環境や街並み景観の形成」「定住促進」などで差が顕著に見られる。

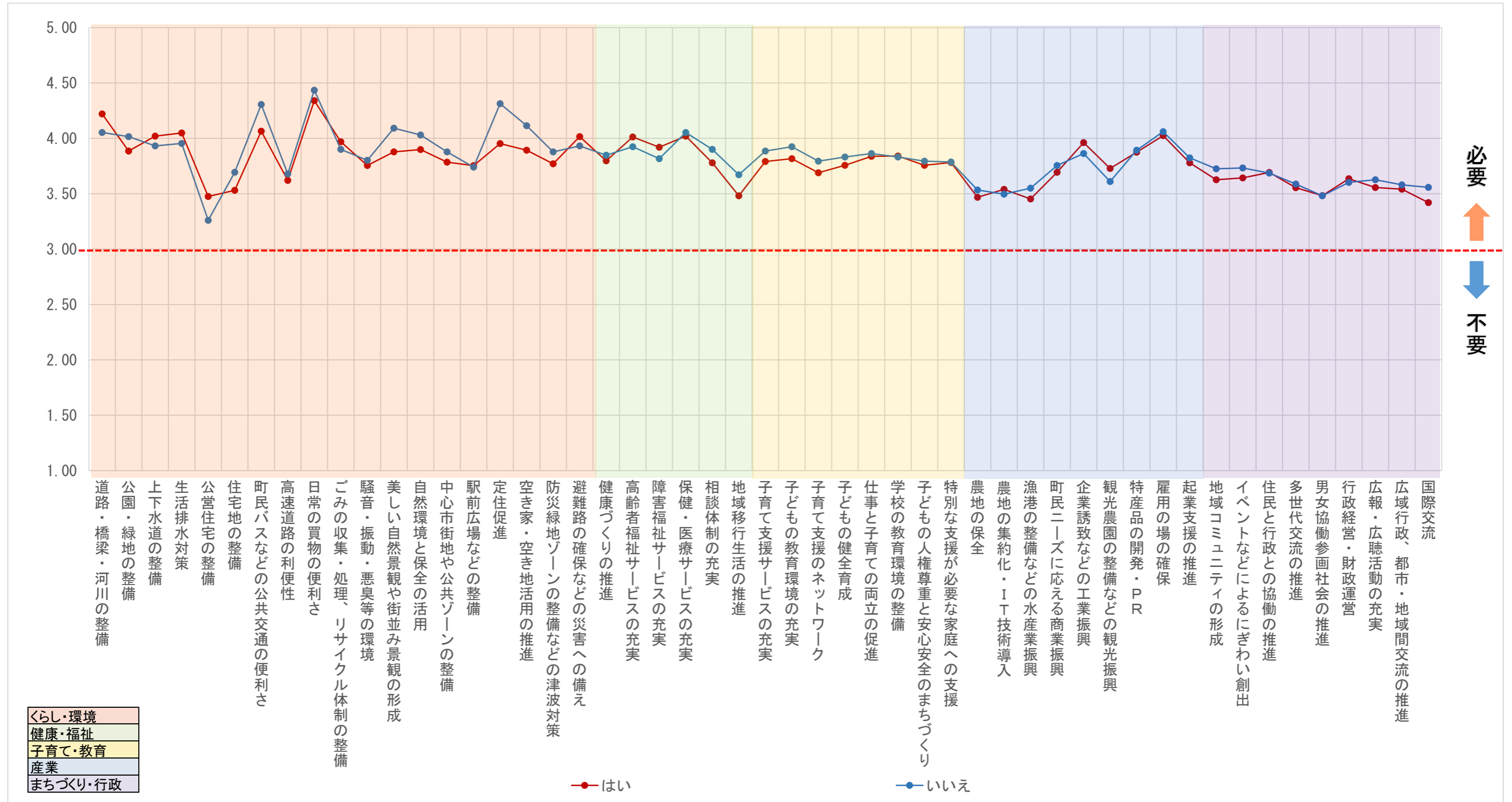


図 満足度平均得点（居住年数）

居住年数別の満足度の平均得点について、居住「1年未満」が全体的に満足度の点数が高くなっている。サンプル数として「1年未満」はかなり少なく意見に偏りがあることも考えられるが、傾向としてくらし・環境に関する項目、健康・福祉に関する項目、子育て・教育に関する項目で他の世代と比較し、満足度は高くなっている。また、全体的に産業に関する項目とまちづくり・行政に関する項目の満足度が低く、「1年未満」以外では、健康・福祉に関する項目と子育て・教育に関する項目の満足度の平均得点も低くなっており、多くの世代で不満の意見が多いことが明らかになった。

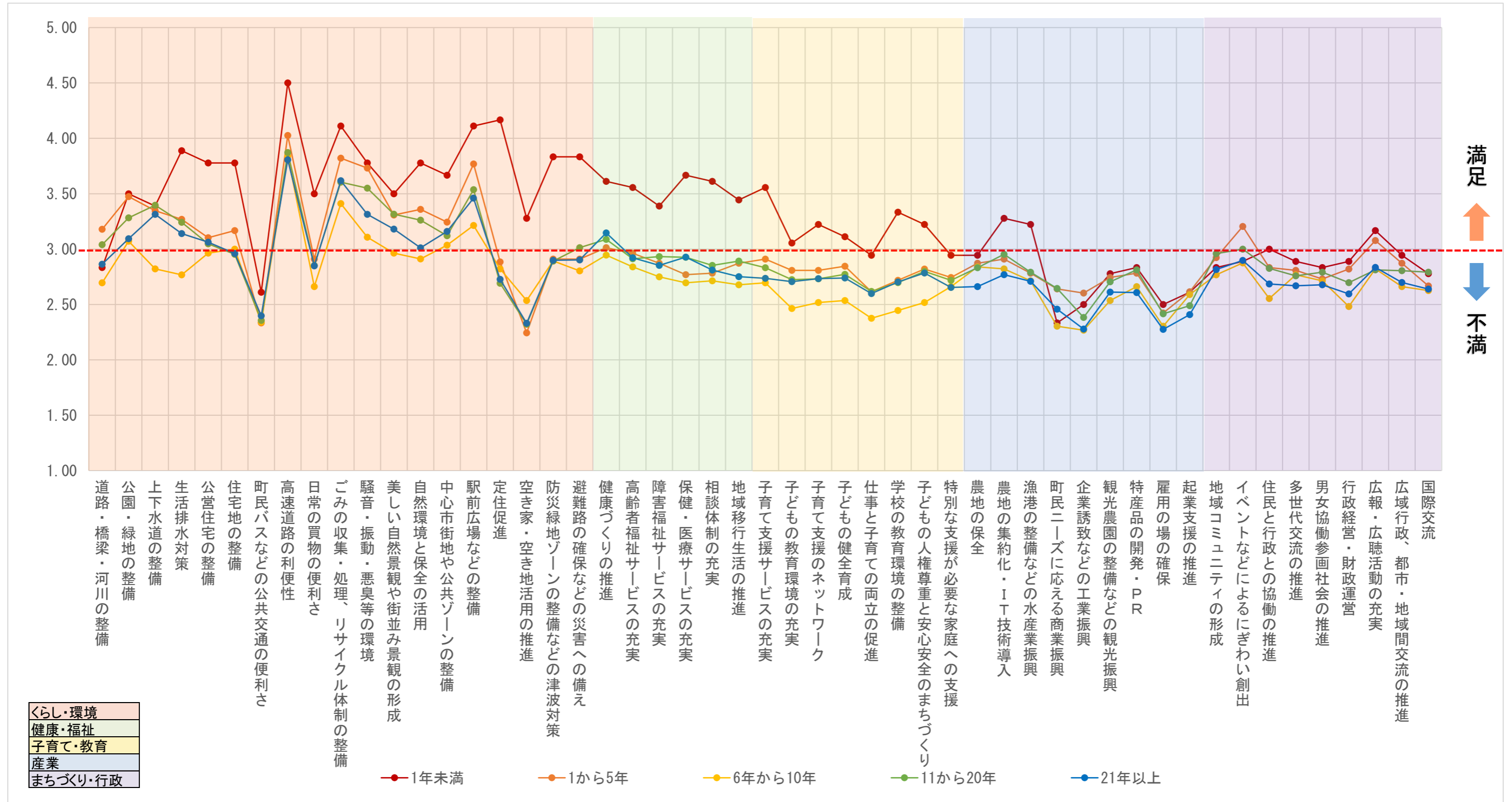
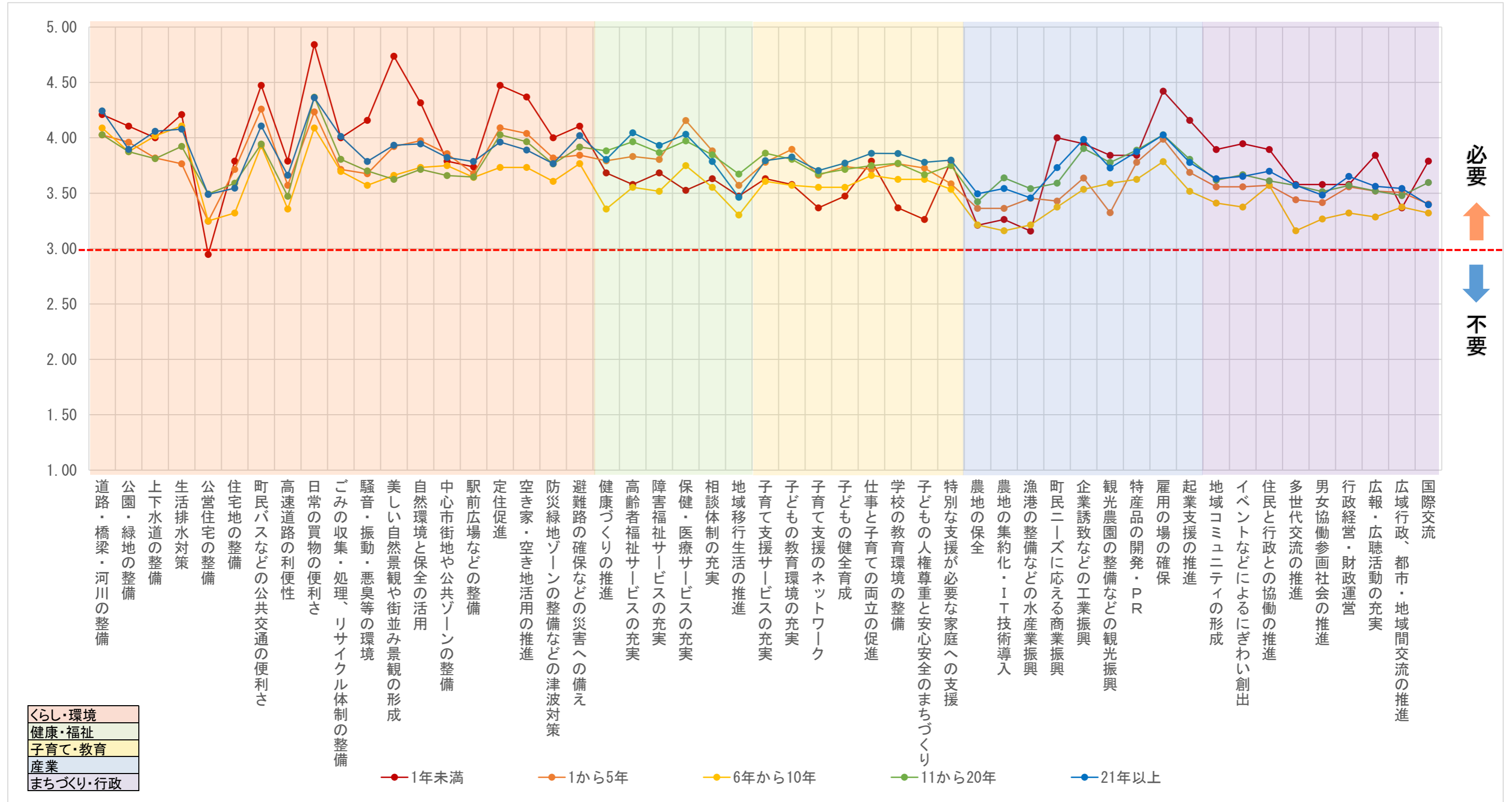


図 必要度平均得点（居住年数）

居住年数別の必要度に関して、居住年数に関わりなく、すべての項目で将来的に必要なだと考えられていることが明らかとなった。唯一、居住年数が「1年未満」の得点で「公共住宅の整備」が3ポイントを下回っているが、その他の居住年数ごとの得点では3ポイントを上回り、全体的な傾向として必要と考えられていると言える。また、「6年から10年」の必要度の平均得点は比較的低くなった。最も高くなったのは、「1年未満」の「日常の買い物の便利さ」となり、次いで、同じく「1年未満」の「定住促進」となり、「日常の買い物の便利さ」は、どの居住年数の回答者の中でも必要度が高くなった。



7 マトリクス分析

満足度と必要度の得点の分布から、まちづくりの取組に対する方向性を4つに分類する。

1 改善・向上領域

満足度が低く、必要度が高い項目は、事業の抜本的な見直しや重点的な取組が必要と考えられる領域である。

2 維持・向上領域

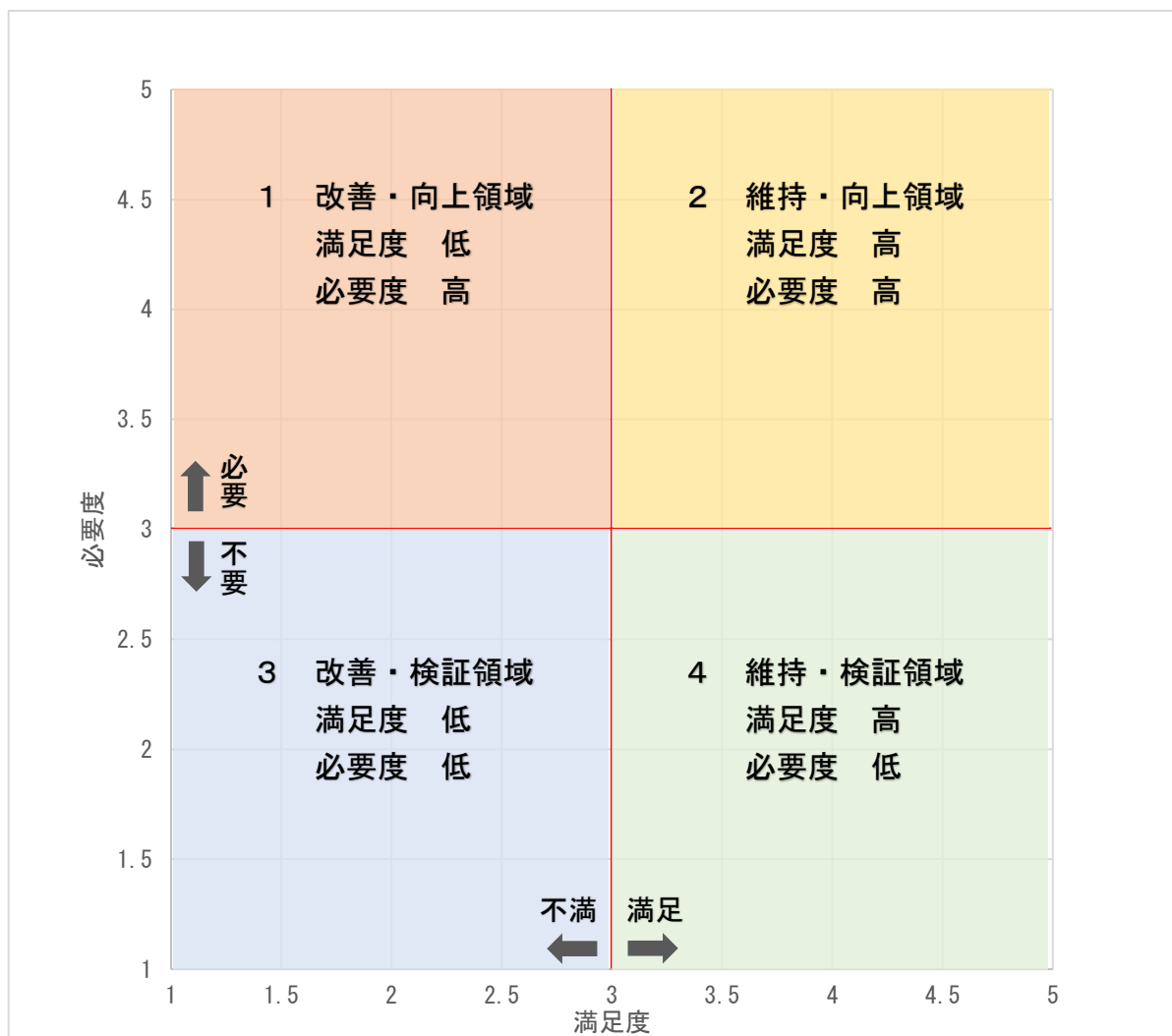
満足度・必要度ともに高い項目は、町の大きな強みであり、その強みを生かしながら、現在の事業を継続・発展させていくことが求められる領域である。

3 改善・検証領域

満足度・必要度ともに低い項目は、町民のニーズを意識しながら、事業の検証を行い、改善を進めていく必要がある領域である。

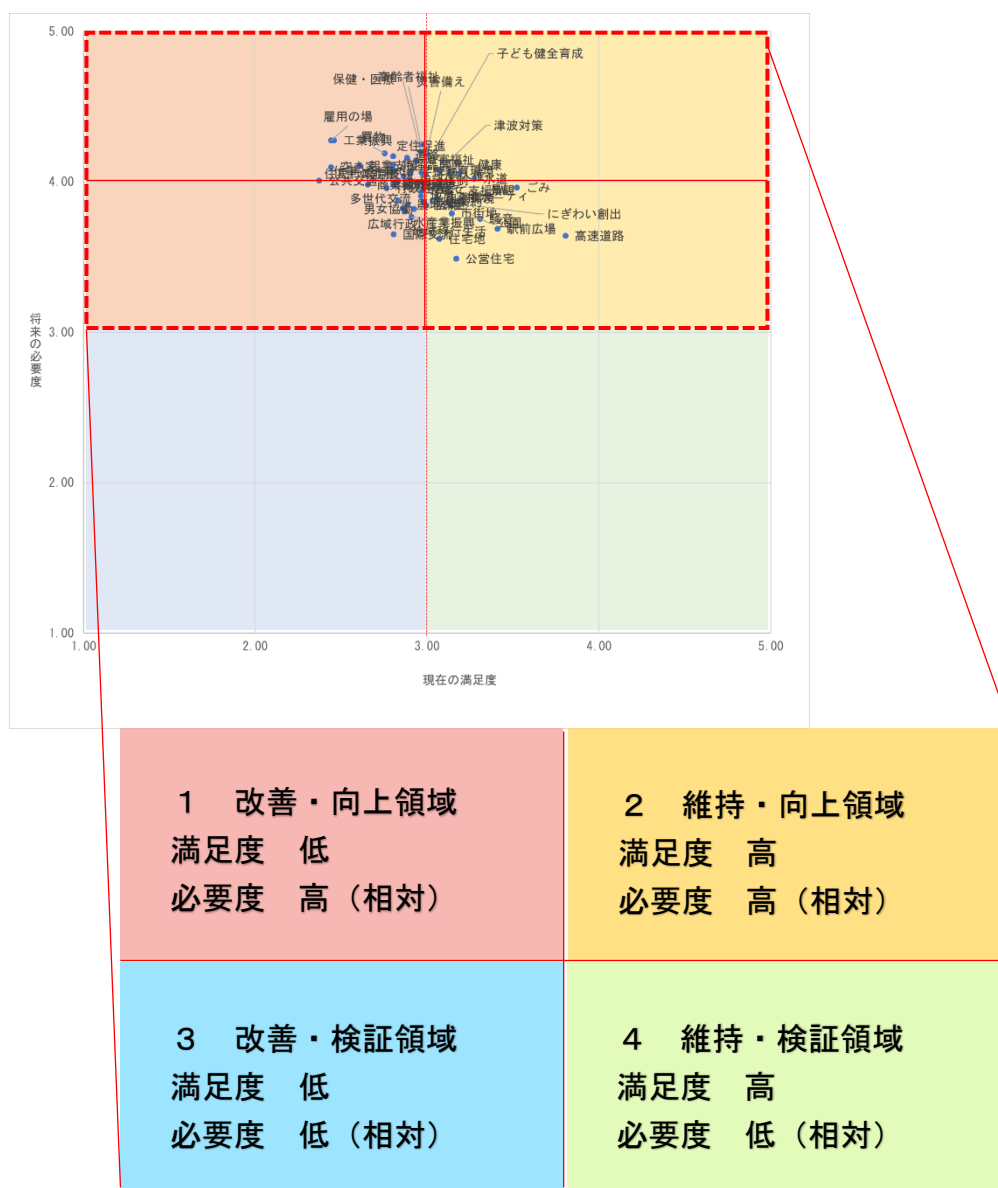
4 維持・検証領域

満足度が高く、必要度が低い項目は、現在の事業を維持しつつも、他の分野への注力を検討するなど、事業の検証が必要な領域である。

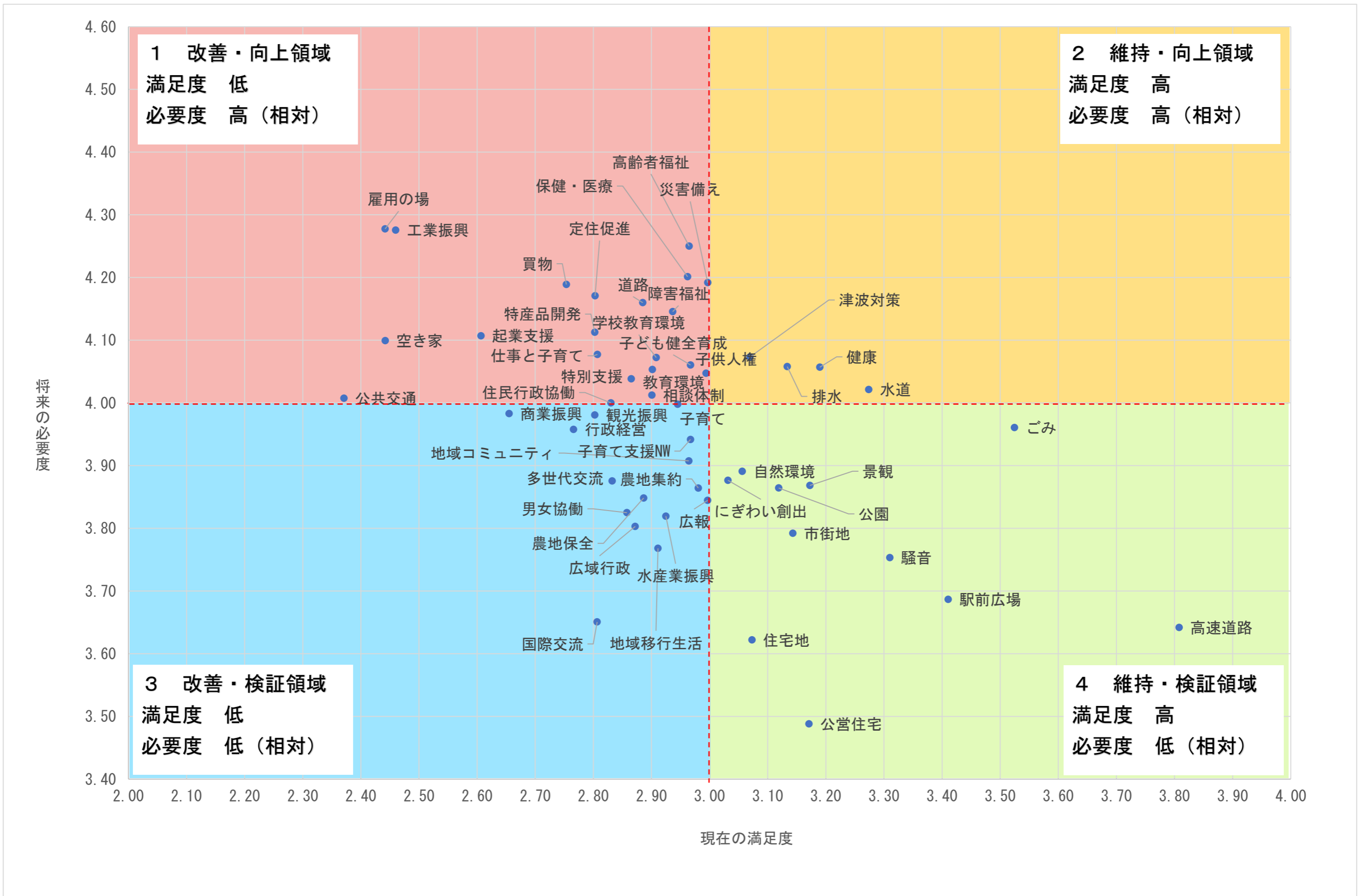


分析の結果、満足度については、平均の3ポイントを上回る項目、下回る項目それぞれ分類された。一方で、必要度については、すべての項目において、3ポイントを上回る結果となった。つまり、町民にとって、どの項目もまちづくりには必要、重要であるという認識である。そのため、2つの象限に分類される結果となった。

しかし、将来のまちづくりにおいて、町民のニーズの応える事業をより効果的に実施・検討するためには、必要度を詳細に分類し、項目間の優先順位を把握することが必要である。そこで、すべての項目が属する2つの象限について再度、細分化を行い、4つに区分し、「1 改善・向上領域」「2 維持・向上領域」「3 改善・検証領域」「4 維持・検証領域」と再区分を行った。細分化するにあたっては、必要度4で区分した。



■ 満足度・必要度マトリクス分析結果（全体）



8 一般町民と中学生のまちづくりに対する満足度の比較

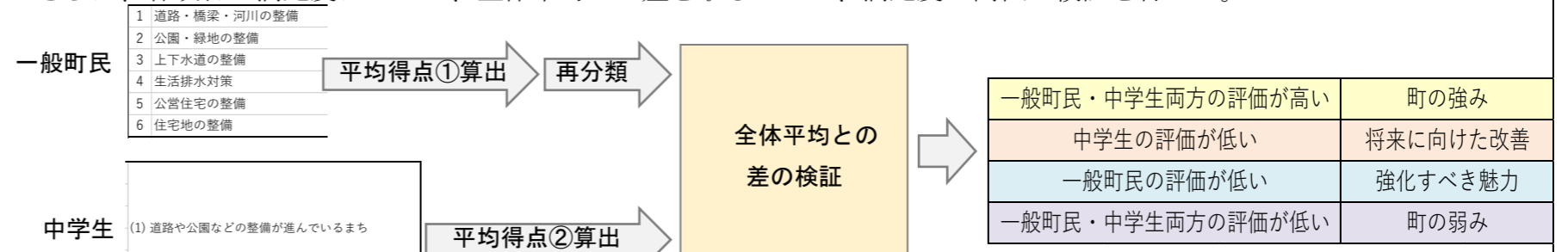
一般アンケート	中学生アンケート
1 道路・橋梁・河川の整備	(1) 道路や公園などの整備が進んでいるまち
2 公園・緑地の整備	
3 上下水道の整備	
4 生活排水対策	
5 公営住宅の整備	
6 住宅地の整備	
7 町民バスなどの公共交通の利便さ	(2) 鉄道や道路などの交通が便利なまち
8 高速道路の利便性	
9 日常の買物の利便さ	該当なし
10 ごみの収集・処理、リサイクル体制の整備	(4) 環境にやさしいまち
11 騒音・振動・悪臭等の環境	
12 美しい自然景観や街並み景観の形成	(3) 自然が豊かなまち
13 自然環境の保全と活用	
14 中心市街地や公共ゾーンの整備	該当なし
15 駅前広場などの整備	
16 定住促進	
17 空き家・空き地活用の推進	
18 防災緑地ゾーンの整備などの津波対策	
19 避難路の確保などの災害への備え	(5) 安全で安心できるまち
20 健康づくりの推進	(10) スポーツや運動がしやすいまち
21 高齢者福祉サービスの充実	(6) お年寄りにやさしいまち
22 障害福祉サービスの充実	(7) 障がいのある人も暮らしやすいまち
23 保健・医療サービスの充実	該当なし
24 相談体制の充実	
25 地域移行生活の推進	
26 子育て支援サービスの充実	(8) 赤ちゃんを産み・子育てしやすいまち
27 子どもの教育環境の充実	
28 子育て支援のネットワーク	
29 子どもの健全育成	
30 仕事と子育ての両立の促進	
31 学校の教育環境の整備	(9) 学習環境が充実したまち
32 子どもの人権尊重と安心安全のまちづくり	該当なし
33 特別な支援が必要な家庭への支援	
34 農地の保全	(11) 農業・水産業などの産業が盛んなまち
35 農地の集約化・IT技術導入などによる農業振興	
36 漁港の整備などの水産業振興	
37 町民ニーズに応える商業振興	
38 企業誘致などの工業振興	
39 観光農園の整備などの観光振興	
40 イベントなどによるにぎわい創出	(13) 町の外から観光客などが多く訪れるまち
41 特産品の開発・PR	該当なし
42 雇用の場の確保	(12) 働く場所が充実したまち
43 起業支援の推進	
44 地域コミュニティの形成	(14) 地域において、人と人との交流が盛んなまち
45 住民と行政との協働の推進	該当なし
46 多世代交流の推進	
47 男女協働参画社会の推進	
48 行政経営・財政運営	
49 広報・広聴活動の充実	
50 広域行政、都市・地域間交流の推進	(16) 他の都市、国の人との交流が盛んなまち
51 国際交流	

【検証方法】

一般町民と中学生の、現在の山元町に対する満足度の違いを検証するにあたり、各項目における平均得点の差を算出した。まず、一般町民と中学生アンケートでは項目が異なるため、それぞれのアンケート項目の分類について、左表のように整理を行った。

次に、一般町民アンケートにおいて再分類された各項目の平均得点①と、中学生アンケートの平均得点②を算出した。

さらに、各項目の満足度について、全体平均との差を取ることで、満足度の高低の検証を行った。



【得点一覧】

項目\平均得点	平均得点		全体平均との差	
	一般町民	中学生	一般町民	中学生
道路や公園などの整備が進んでいるまち	3.11	3.46	0.13	-0.16
鉄道や道路などの交通が便利なまち	3.09	3.39	0.11	-0.23
自然が豊かなまち	3.11	4.60	0.13	0.98
環境にやさしいまち	3.42	4.18	0.43	0.56
安全で安心できるまち	3.03	4.08	0.05	0.46
お年寄りにやさしいまち	2.96	4.05	-0.02	0.43
障がいのある人も暮らしやすいまち	2.94	3.73	-0.05	0.11
赤ちゃんを産み・子育てしやすいまち	2.92	3.48	-0.07	-0.14
学習環境が充実したまち	2.91	3.57	-0.08	-0.05
スポーツや運動がしやすいまち	3.19	3.60	0.21	-0.01
農業・水産業などの産業が盛んなまち	2.78	4.05	-0.20	0.43
働く場所が充実したまち	2.79	2.83	-0.20	-0.79
町の外から観光客などが多く訪れるまち	2.63	2.43	-0.35	-1.18
地域において、人と人との交流が盛んなまち	3.03	3.77	0.05	0.15
歴史や文化を大切にしているまち		3.76		0.14
他の都市、国の人との交流が盛んなまち	2.84	2.91	-0.14	-0.71
全体平均	2.98	3.62		

【検証結果】

● 全体として、一般町民よりも中学生の町に対する評価が高い。

<町の強み>

● 自然や環境、安全、交流については、一般町民、中学生ともに評価が全体平均よりも高く、町の強みとして、今後一層の強化を図ることが求められる。

<将来に向けた改善>

● 車を利用する町民が多い本町において、高速道路開通など、交通が便利な町として評価される一方で、車を利用できない中学生については、交通に関する評価は低くなっている。車を利用できない層への、移動手段の確保が求められる。

<強化すべき魅力>

● 高齢者に優しく障がい者が暮らしやすいことや、農業・水産業などの産業については、一般町民の評価は低いものの、中学生の評価は高くなっている。中学生にとっては、町の大きな魅力である一方、安定した収入の確保や、若者が働きやすい環境など、安心して働ける基盤が整備されていないことが、評価の差につながっていると考えられる。

<町の弱み>

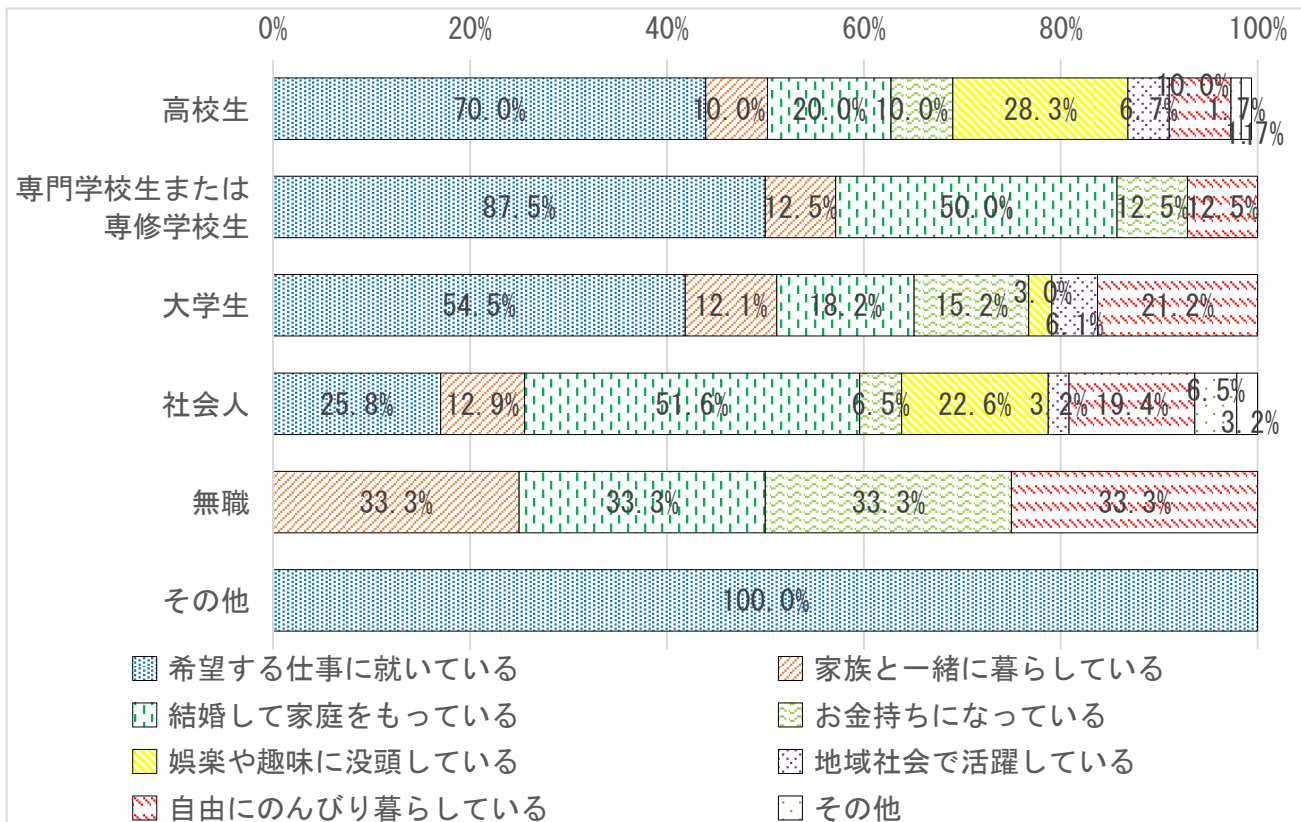
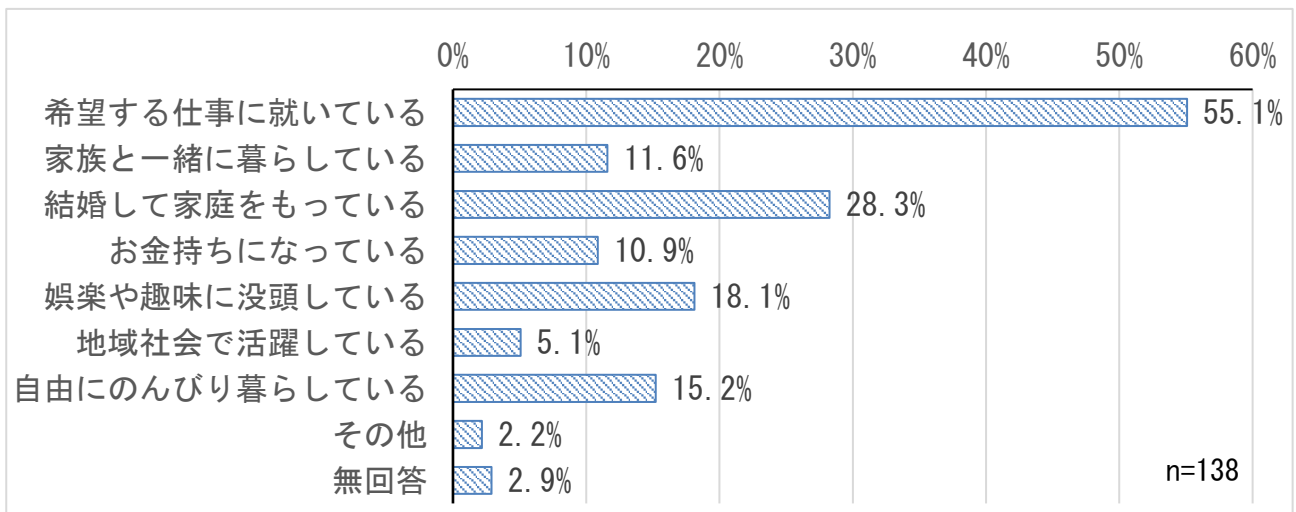
● 子育てや学習環境、働く場、観光、広域的な交流については、一般町民、中学生ともに評価が全体平均よりも低く、改善を行い、町民の不安を解消することが求められる。

5 若者が求める将来像の把握

(1) 10年後にしていきたい暮らしのイメージ

10年後にしていきたい暮らしのイメージについて、「希望する仕事についている」が55.1%と最も高く、次いで「結婚して家庭を持っている」が28.3%となった。最も低かったのは「地域社会で活躍している」の5.1%となった。

所属別に見ると、この先に就職を控える高校生や専門学校生または専修学校生、大学生で「希望する仕事についている」が高くなった。また、専門学校生または専修学校生と社会人で「結婚して家庭を持っている」、高校生と社会人で「娯楽や趣味に没頭している」が高くなった。

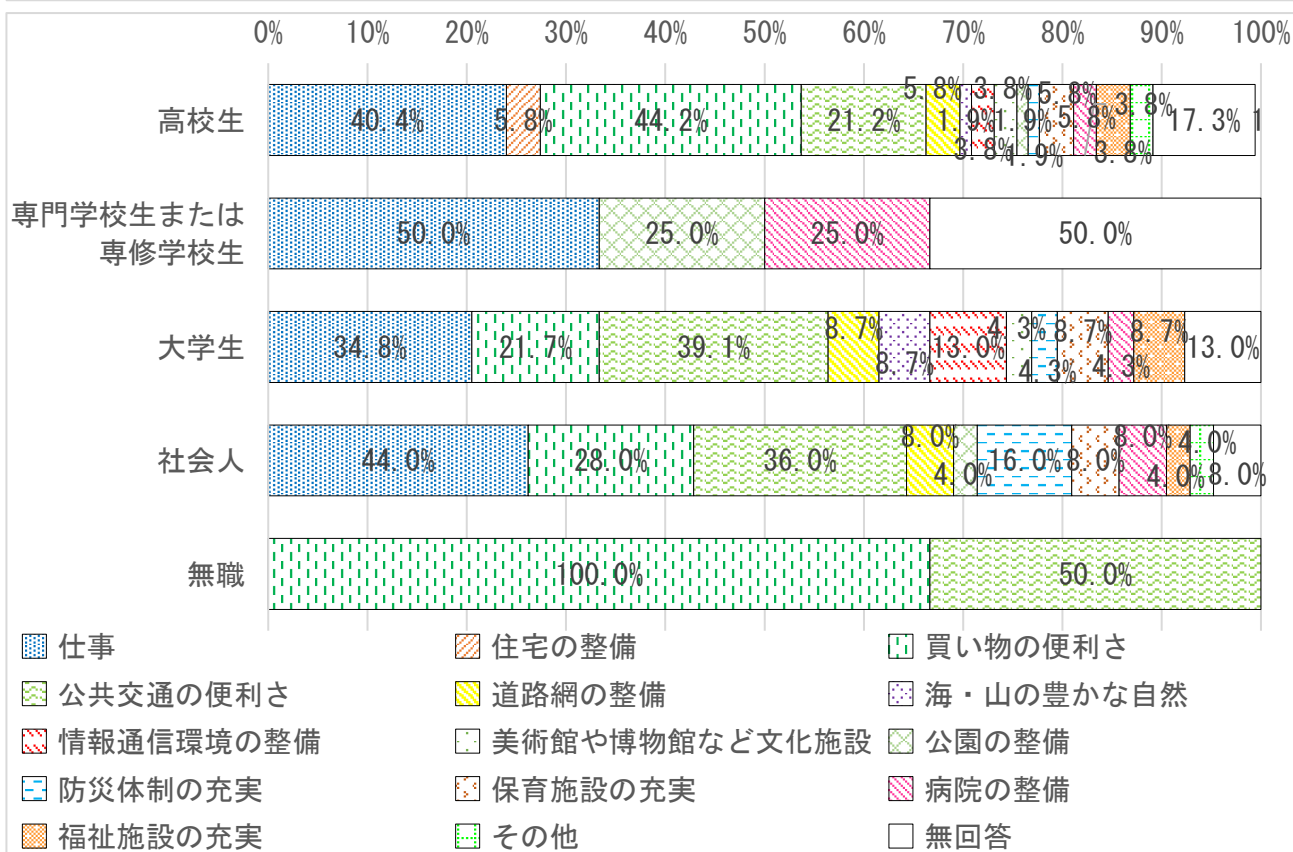
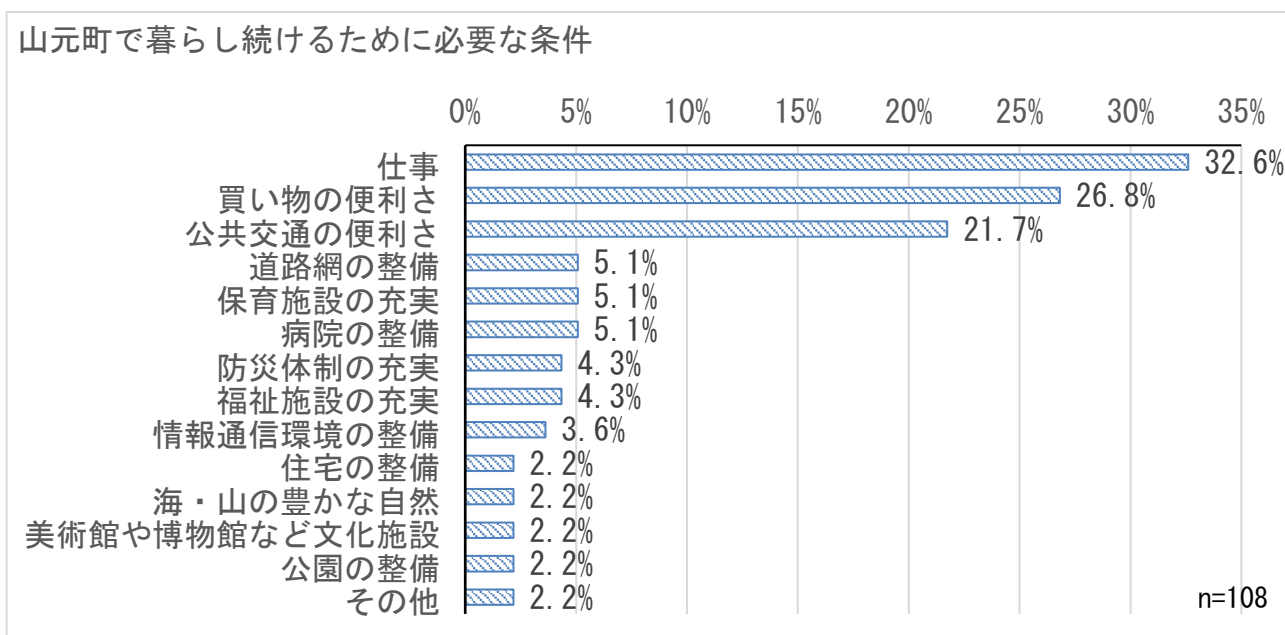


(2) 山元町で暮らし続けるために必要な条件

山元町で暮らし続けることで必要な条件として、最も割合が高かったのは、「仕事」の38.9%となり、次いで「買い物の便利さ」が34.3%、「公共交通の便利さ」の27.8%となった。

最も低かった項目として、「住宅の整備」「海・山の豊かな自然」「公園の整備」が2.8%となった。

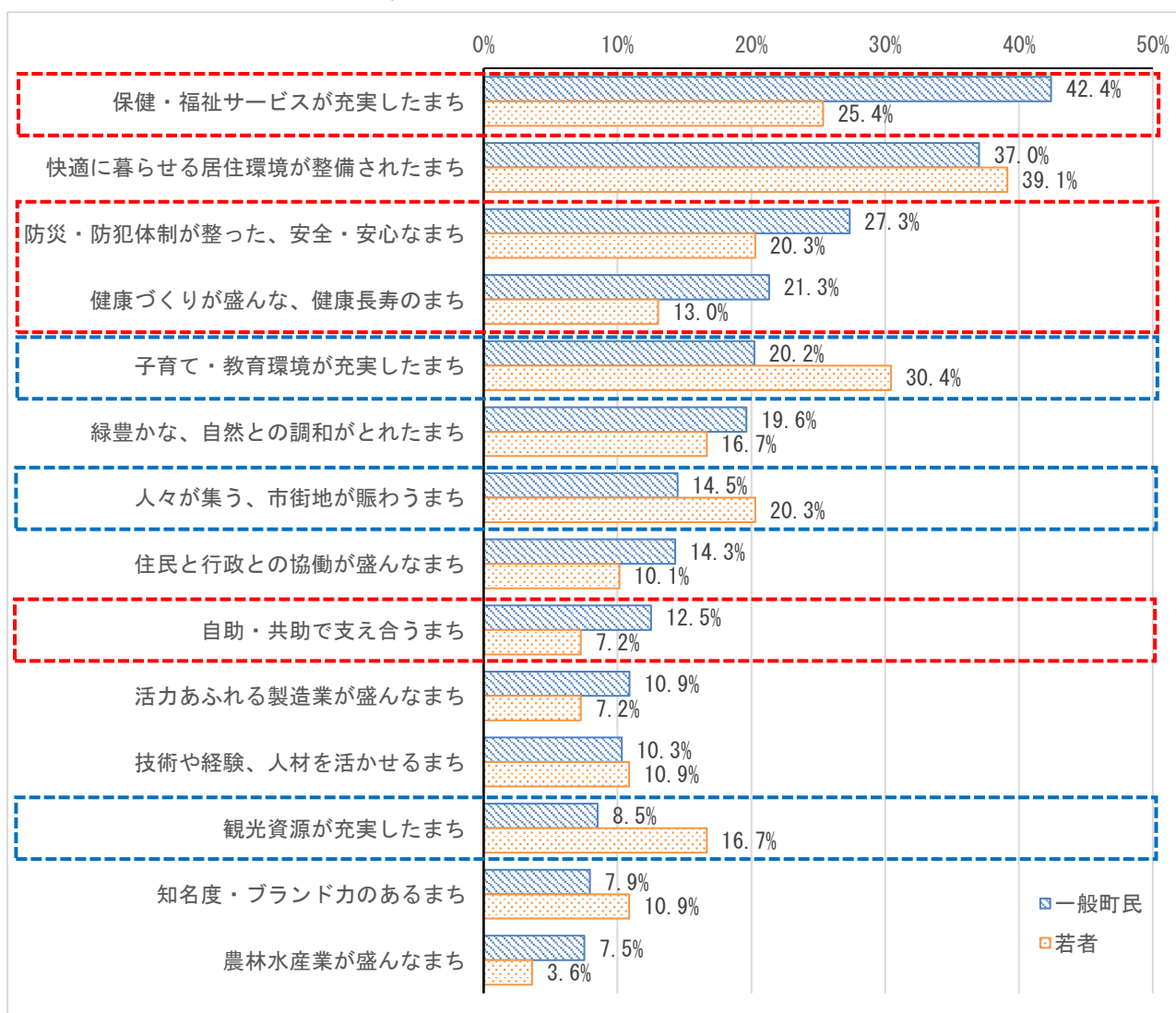
所属別に見ると、高校生や大学生、社会人、無職で「買い物の便利さ」「公共交通の便利さ」の回答割合が高く、専門学校生または専修学校生で「公園の整備」「病院の整備」が高くなった。



(3) 一般町民と若者における理想とする町の将来像の違い

10年後、山元町がどのようなまちになっていたら良いかに対する一般町民と若者の意識の違いについて、理想とするまちの将来像で最も差がみられたのは、「保健・福祉サービスが充実したまち」の17.0%となり、若者に比べ、一般町民の方が「保健・福祉サービスが充実したまち」になっていることを重要としている結果となった。次いで一般町民と若者の回答割合に差がみられたのは「子育て・教育環境が充実したまち」の10.2%となり、この項目に対しては、一般町民に比べ若者が重要としている結果となった。

一方、「快適に暮らせる居住環境が整備されたまち」「緑豊かな、自然との調和がとれたまち」「技術や経験、人材を活かせるまち」の回答割合の差は3%未満と、一般町民と若者の意識の差は小さくなった。



一般町民の方が、5ポイント以上高い項目（保健・福祉、安全・安心、健康長寿、自助・共助）

若者の方が、5ポイント以上高い項目（子育て・教育環境、賑わい、観光資源）

6 アンケート調査結果総括

一般町民、若者、中学生アンケートの結果から、一般町民と若者・中学生では、それぞれ山元町に対する満足度が高い項目や、求める将来像が異なることが把握できた。

さらに、60代以上の回答が多かった一般町民アンケートでは、居住継続意向が高いものの、若者や中学生アンケートでは、居住継続意向が低い傾向がみられた。その一方で、多くの中学生は、「住みやすい」「山元町が好きである」と回答している。

山元町の将来を考えるうえで、町民全員のニーズを的確にとらえ、そのニーズに応えるための施策を展開する一方で、若者が住み続けたいと考えるまちづくりを展開する必要がある。そのためには、一般町民と共通して必要であるという共通認識のある「公共交通」や「買物の利便性」、「雇用の場」の整備に加え、「子育て」や「にぎわい」といった要素も重要であると考えられる。

